

令和 2 年 度

事業報告書

(事業報告 ・ 附属明細書)

自：令和 2 年 4 月 1 日

至：令和 3 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 つどいの家

目次

I 法人経営に関する事項	1
1. はじめに／理事長総括	1
2. 財務状況・財産状況	2
3. 広報・啓発活動に対する取り組み	3
4. その他の法人経営に関する取り組み	3
II 法人の現況に関する事項	6
1. 法人概要	6
2. 役員・評議員等の状況	7
3. 理事会開催の状況	9
4. 評議員会開催の状況	9
5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	10
6. 監査等の状況	10
7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	11
8. 地域における公益的な取組の状況	11
9. 職員の状況	12
III 部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	15
A 総務部	15
1. 総務課	15
B 日中活動支援事業部	17
2. 仙台つどいの家	17
3. つどいの家・コペル	19
4. つどいの家・アプリ	22
5. 八木山つどいの家	25
6. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	28
C 地域生活支援事業部	30
7. 地域生活サポートセンター「びぼっと南光台」	30
8. 地域生活サポートセンター「びぼっと支倉」	32
9. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	34
10. グループホーム（共同生活援助事業）	37
IV 参考資料	40
1. 利用実績（日中活動支援事業部門）	41
2. 利用実績（地域生活支援事業部門）	45
3. 寄附金受領状況	57
4. 地域における公益的な取り組みに関する状況等	59
5. 法人会議・委員会実施状況	60

I 令和2年度 法人経営に関する事項

1. はじめに / 理事長総括

昨年度は、つどいの家の運営においても新型コロナウイルス感染症に翻弄され続けた一年でした。一方、社会に目を転じれば、公務員倫理、公文書取扱い、学術会議、選択的夫婦別姓、入管法、国民投票法、近隣諸国との関係等々、政治の劣化が懸念され本来大いに議論されるべき問題が新型コロナの陰に追いやられ、この先日本社会はどうなるのだろうかといった危惧に近い思いを常に抱いていたような気がします。

この一年、全国一律休校要請に始まり、布マスクが配られ緊急事態宣言が全国に発出され、5月に解除されたのち第二波、第三波を経て現在に至っています。決算年度においては、感染拡大防止対策を徹底しつつ利用者本人の意思や希望を注意深く把握しながら活動を展開することが求められ、地域に出て多くの人と触れ合い発信することは困難でしたし、プールや温泉、カラオケなどの楽しみの活動はおろか外出自体も制限せざるを得ないこともありました。こうした活動の制約は、外出支援をはじめ利用者の減少＝収入の減を招き、感染防御対策費用の増加と相まって経営圧迫要因となりました。

通常業務以外の特記すべき取組みとして、まず、コロナ禍に対応するためWEBを活用した会議、情報交換、対外発信の仕組みづくりを行いました。今後習熟、改善を進め、より有効に活用していきたいと考えます。

また、法人や事業に対する寄付金について、寄付者、法人双方にとってメリットのある仕組みづくりに向け、後援会員等関係の方々と共に学習、議論を重ね一定の見直しを行いました。

レスパイト事業については、市の見直し方針を受け、法定事業であるショートステイや日中一時支援事業として市単独の補助を得ながら存続の方途を見出すことができましたが、利用実績の向上とそれを支える担い手確保が課題となっています。

その他様々な課題に今後も対応していく必要がありますが、それらすべてに共通するものとして人材の確保育成に継続的に取り組んでいくことが極めて重要と痛感しています。

振り返れば10年前、東日本大震災の後、より良い復興のあり方とそれに要する費用と時間両面のコストをどう考えるか、理想を追わず何よりも生業の早期の復活を最優先すべきではなど悩ましいことはありつつも、福島第一原発の過酷事故以外はこれより悪くはない、少しずつではあれ前には向かっているなと思えたものですが、今の事態は、そこをはっきり見通すことができないように思えてなりません。このことが漠然とした不安感や閉塞感に繋がっているものと考えますが、つどいの家に関わる私たち一人一人が、必要不可欠な社会資源を支え担っているという自覚のもと感染予防対策を徹底しながら、ときには、「そのうち何とかなる」くらいの楽観的な心も持ち、利用者本人に徹底的に寄り添って慎重に事業を運営していきたいと考えます。

2. 財務状況・財産状況

(1) 財務状況の推移

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度	平成31年度	平成30年度	前年度比
サービス活動収益(1)	894,062	850,521	842,412	5.1%
サービス活動費用(2)	876,932	851,910	877,047	2.9%
サービス活動増減差額(3=1-2)	17,130	△1,389	△34,635	—%
サービス活動外増減差額(4)	7,993	10,987	11,548	△27.3%
経常増減差額(5=3+4)	25,123	9,598	△23,087	161.8%
特別増減差額(6)	12,130	51,882	12,924	△76.6%
当期活動増減差額(7=5+6)	37,254	61,480	△10,163	△39.4%

(2) 資産・負債等の推移

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度	平成31年度	平成30年度	前年度比
資産合計	1,217,637	1,224,697	1,192,058	△0.6%
負債合計	196,668	211,861	210,210	△7.2%
純資産合計	1,020,968	1,012,836	981,848	0.8%

(3) 借入金の状況

(令和3年3月31日現在)

借入先	借入用途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	つどいの家・コペル建設資金	完済
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	4,277
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	40,884
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	26,712
七十七銀行	つどいの家・コペル設備整備資金	11,778
(借入金 合計)		83,651

※令和2年度新規借入額:なし

(前年度より12,264千円減)

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位:千円)

補助種別	令和2年度	平成31年度	平成30年度	前年度比
事業運営費	64,091	84,518	92,779	△24.2%
人件費(職員加配)	37,954	27,501	35,012	38.0%
施設設備整備等	2,110	0	1,900	—%
その他	6	20	34	△70.0%
寄附金	21,494	74,980	25,447	△71.3%

※詳細は、「IV 参考資料」に掲載

3. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第30号 令和2年7月30日発行（発行部数：1,300部）

（テーマ）平成31年度を振り返って/事業報告・決算報告など

同 第31号 令和3年1月31日発行（発行部数：1,450部）

（テーマ）新型コロナウイルス感染対策など

(2) ホームページによる情報開示と支援者との継続的な関係性構築に向けて

従来通り、社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等をホームページ上で開示しました。

また、法人が運営する各事業の取り組みを広報することを通して、社会からの共感を得ながら様々な支援に繋がられるよう、または求職者の興味関心を得て人材確保に結び付けられるよう、ホームページ上で常に新しい情報の更新に努め、法人及び事業運営に係る様々な取り組みを積極的に発信しました。

このほかWeb以外にも、寄付報告及び募集チラシを作成し、これまで支援をいただいた人への感謝を改めて示しながら継続的な関係性の構築に努めるとともに、新たな支援者の獲得としょうがい者理解の裾野を広げる取り組みに繋がりました。（寄付金受領状況は参考資料IVに掲載）

(3) 啓発活動

しょうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として、後援会との共催で研修会や上映会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、開催を中止しました。

4. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日時	協議内容	出席者数
第1回 R2.11.6（金）	令和2年度上半期（4～9月）における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者 5名／9名 解決責任者 7名／7名
第2回 R3.3.8（月）	令和2年度下半期（10～3月）における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 3名／3名 受付担当者 5名／9名 解決責任者 6名／7名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
つどいの家・コペル	・公用車の乱暴な運転について、地域住民の方より苦情。 ・地震発生時、連絡がなかったことに対する利用者家族から苦情。	解決済
仙台つどいの家	・公用車の運転マナーについて、地域住民の方より苦情。 ・事故（利用者の転倒）報告が遅れたことに対する、利用者家族からの苦情。	解決済

八木山つどいの家	送迎時の利用者対応について、利用者家族より苦情。	解決済
若林障害者福祉センター	後援会募金箱の設置について、職員の対応等に対し設置協力店より苦情。	解決済
びぼっと支倉	・GH入居者への相談員の対応について、GH管理者より苦情。 ・相談員の諸対応について、利用者より行政経由で苦情。	解決済
※合計 5 件 （内訳） 事業所の近隣住民からの苦情 3 件 利用者・保護者 4 件 職員 1 件		

(2) 中期経営計画の策定に向けた取り組み

法人を取り巻く様々な社会課題や福祉ニーズに対応し、組織としての持続可能性を高めていくためにも、多角的・客観的な分析に基づいた経営戦略を策定する必要があり、一昨年度より管理者及び主任級職員を中心に外部専門相談等を活用しながら計画策定に取り組んできました。新型コロナウイルス感染拡大の影響や先行きが不透明な状況等を踏まえ、計画策定方針を抜本的に見直し、優先順位を定めながら、職員等が今後の法人経営における道標となり得るものに仕上げ、内容共有を図りました。

<具体的な取り組み>

- ・ 中間案に対する管理者等からの意見集約
- ・ 理事長と 3 部長間で法人経営上の優先順位を協議、最終案策定に向けた検討
- ・ 経営戦略検討会議（構成員 16 名） 年 1 回開催（最終案に対する意見集約）
- ・ 宮城県社会福祉協議会による専門相談事業の活用 年 1 回

(3) 介護職員初任者研修事業の実施

財務上の課題や人材不足等に対応するため、2019 年度より事業化した介護職員初任者研修は、2020 年度においても引き続き、「介護員養成研修事業（通信）」として実施いたしました。本来であれば、年 4 回（4 クール）実施する予定でしたが、第 1 クール（5・6 月開催）は応募・実施期間が新型コロナウイルスの緊急事態宣言とも一部重なり、応募者が 0 名であったため開催には至りませんでした。またコロナ禍での開催ということもあり、WEB 方式を取り入れるなどの工夫は行いましたが、受講者は 2019 年度の 18 名に比べ、2020 年度は計 6 名に留まりました（職員受講者 2 名、外部受講者 4 名）。2 年間で 24 名の方に受講いただきましたが、中には当法人での勤務を希望される方や、実際に雇用に結びついた方もおり、少しずつですが人材の確保にもつながっております。

新型コロナウイルスの感染拡大により依然として先行きは不透明であり、本研修にも影響を及ぼしそうですが、今後も人材の確保のみならず、一般市民等多くの方々にしょうがい分野に興味を持ってもらい、理解を深めてもらえるよう努めてまいりたいと思います。

(4) 新型コロナウイルス感染対策に関する対応

新型コロナウイルスの感染対策については、収束の見通しがなく長期的な対応が求められたなか、法人及び職員間で感染予防と拡大防止を図るための様々な措置を講じ対処しました。

➤ 感染対策会議の実施

- ・ 令和 2 年度 5 回開催（4 月、5 月、6 月、9 月、12 月）

※これとは別に、経営会議や事業運営会議で適宜対応等を管理者間で確認

➤ 職員等への感染対策通知

- ・ 4/14 付 事務連絡「通勤、特別休暇制度等の就業上の取扱い」（第4報）
- ・ 4/24 付 事務連絡「運営上の活動制限、就業上の取扱い、その他感染対策等」（第5報）
及び「法人及び職員が当面取るべき対応等について」
- ・ 5/21 付 事務連絡「運営上の活動制限、就業上の取扱い等」（第6報）
- ・ 5/29 付 事務連絡「新型コロナウイルス抗体検査受検に伴う不労時の取扱い」
- ・ 6/26 付 事務連絡「運営上の活動制限の解除、熱中症対策等」（第7報）
- ・ 7/22 付 事務連絡「プール活動の制限、外出活動等の留意事項等」（第8報）
- ・ 9/23 付 「感染防止のための職員行動指針」策定・職員周知
- ・ 10/15 付 「新型コロナウイルス感染症発生時の初動対応（グループホーム編）」策定
※その後、労基署や顧問弁護士などからの助言等を踏まえて内容を一部更新
※また、有事における対応チーム編成に伴い、基礎疾患等を有するなど特に配慮を必要とする職員の把握（人事委員会）
- ・ 12/3 付 事務連絡「年末年始の過ごし方などに関する注意喚起等」（第9報）
- ・ 1/18 付 利用者向け「現下におけるサービス提供上の留意点」発出

➤ ホームページによる外部公表

- ・ 7/9 付 マスク等寄贈一覧掲載
- ・ 7/21 付 新型コロナウイルス感染症による生活等への影響に関するアンケート調査結果
- ・ 8/21 付 サービス提供等への影響（3～6月期における事業実績・財務状況など）
- ・ 10/6 付 感染防止のための職員行動指針
- ・ 10/6 付 感染対策に伴う来訪者へのお願い
- ・ 3/19 付 宮城県及び仙台市における独自の緊急事態宣言発出に伴う当法人の対応
（外出を伴う活動の一部制限など）

➤ その他の感染対策及び対応など

- ・ 4/1 辞令交付&（全職員対象）職員会議を中止 ※管理者のみ参集
- ・ 4～5月 各事業所の保護者会および後援会総会中止を要請
- ・ 6/1～ 生活介護利用者の家族を対象に感染症に伴う生活への影響調査(アンケート)実施
- ・ 会議、研修等のオンライン化に向けた環境整備
- ・ 法人所属看護師や宮城県看護協会感染管理認定看護師による衛生指導や職員研修等の実施
- ・ 国、行政機関及び民間団体主催の感染対策セミナー等への積極的な参加
- ・ 北総育成園（千葉県・社会福祉法人さざんか会運営）に対する義援金募集
- ・ 小学校等の臨時休校等に伴う助成金申請事務
- ・ 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業に対する事務 など

(5) その他事務手続き

- ◆ 登記に関する事項
 - ・代表者新任登記 (4/8)
 - ・資産総額変更登記 (6/29)
 - ・目的等変更登記 (8/11)
- ◆ 行政手続き
 - ・介護員養成研修事業者認定/宮城県 (4/7 認定)
 - ・社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市 (6/29)
 - ・定款変更認可申請/仙台市 (7/15 認可)
- ◆ 法人内部規程・基準等の整備
 - ・定款 /改正
 - ・就業規則 /改正
 - ・賃金規程 /改正
 - ・経理規程 /改正
 - ・(各事業)運営規程 /改正
 - ・(短期入所等事業所) 運営規程 /創設
 - ・職員の職名に関する規程 /改正
- ◆ その他
 - ・改正「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等」の施行に伴う対応
 - ※一般事業主行動計画の更新
 - ※ハラスメント防止を図るための相談窓口設置等
 - ・プラスチック製買い物袋(レジ袋)の有料化開始に伴う生産活動等での対応検討と取扱いの見直し

- ◆ 仙台市長への要望書提出 (令和2年9月4日付提出)
 1. グループホームにおける個人単位の居宅介護等利用の恒久化について
 2. 障害福祉サービス等報酬上の「食事提供体制加算」の恒久化について
 3. 仙台市障害者家族支援等推進事業等法定化支援事業に従事する職員への慰労金支給について
 4. 継続的な事業運営のため「移動支援事業」の報酬体系の抜本的な見直しについて
 5. 委託相談支援事業所の増設及びサポート体制の強化について
 6. しょうがい者のための成年後見制度に対する理解促進と法人貢献の立ち上げ支援について

以上が、仙台市知的障害者関係団体連絡協議会加盟団体共同で提出した当法人からの要望事項である。
 なお、「3」については要望書提出を前に支給対象となることが仙台市より確認されたため、この項目は取り下げている。

- 同 仙台市長への個別案件に対する要望書提出 (令和3年1月18日付提出)
 1. 短期入所等事業所「すてっぷ・はうす」におけるスプリンクラー設備の設置補助について

II 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
- (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田1丁目17番58号
- (3) 事業種別

第2種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助、短期入所事業(新) ※令和2年10月1日から) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 ※令和2年9月30日まで 福祉有償運送事業 介護員養成研修事業 日中一時支援事業(新) ※令和2年10月1日から

(4) 事業の種類及び名称など (令和3年3月31日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町3	山口 収	生活介護	30名	38名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10名	7名
つどいの家・コペル	若林区上飯田1	福地慎治	生活介護	40名	42名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10名	6名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	大累貴司	生活介護	30名	31名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10名	7名
八木山つどいの家	太白区八木山本町1	佐々木健	生活介護	20名	14名
若林障害者 福祉センター	若林区遠見塚東	小原弥生	生活介護	9名	13名
			自立訓練(生活訓練)	6名	0名
ぴぼっと南光台	泉区南光台3	佐藤秋男	居宅介護等	—	142名
			短期入所等(※1)	—	270名
			福祉有償運送	—	9名
ぴぼっと支倉	青葉区支倉町	佐藤秋男	指定特定相談	—	203名
			指定障害児相談	—	56名
			指定一般相談	—	0名
			委託相談支援	—	131名
			短期入所等	—	※1 共通
ピボット若林	若林区遠見塚2	飯田克也	指定特定相談	—	132名
			指定障害児相談	—	7名
			指定一般相談	—	0名
			委託相談支援	—	65名
			居宅介護等	—	20名
			短期入所等	—	※1 共通
ひこうき雲	若林区沖野3、他	飯田克也	共同生活援助	24名	24名

2 役員・評議員等の状況 (令和2年度内就任者の状況/令和3年3月31日現在)

(1) 理事・監事

(理事定数: 6名 監事: 2名)

役職名	氏名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備考
理事長	佐藤 清	理事長	なし	5回/5回(100%)	
常務理事	佐藤 吉久	職員・総務部長	なし	5回/5回(100%)	
理事	下郡山 和子		なし	5回/5回(100%)	
理事	菅井 裕行	大学教授	なし	5回/5回(100%)	
理事	山口 収	職員・日中活動支援部長	なし	5回/5回(100%)	
理事	飯田 克也	職員・地域生活支援部長	なし	5回/5回(100%)	
監事	三浦 俊一		なし	5回/5回(100%)	

監 事	大谷津 敏	税理士	なし	5回/5回(100%)	
-----	-------	-----	----	-------------	--

*任期：令和元年6月25日から令和3年6月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第40条第4項及び第5項並びに社会福祉法施行規則第2条の7及び第2条の8に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数：7名)

氏 名	兼務状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
高橋 治	他法人会長	なし	4回/4回(100%)	
細井 実	他法人理事長	なし	4回/4回(100%)	
久保野恵美子	大学院教授	なし	4回/4回(100%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	3回/4回(75%)	
中山 伸枝	市教育局嘱託職員	なし	4回/4回(100%)	
井上 博	他法人理事長	なし	3回/4回(75%)	
渡邊 好孝	県理学療法士会 会長	なし	4回/4回(100%)	
※監事の評議員会出席状況				
三浦 俊一		なし	2回/2回(100%)	
大谷津 敏	税理士	なし	2回/2回(100%)	

*評議員任期：平成29年4月1日から平成33年(令和3年)6月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数：3名)

氏 名	区分	委員会出席状況	備考
三浦 俊一	監 事	開催なし	
小林 龍之	事務職員	〃	
後藤 道子	外部委員	〃	

*任期：令和3年1月28日から令和6年6月の定時評議員会の終結の時まで

(4) 地域生活支援諮問委員会

氏 名	区 分	委員会出席状況	備 考
下郡山 徹一	有 識 者	開催なし	前理事長
阿 部 達	有 識 者	〃	前理事
佐々木 明子	地域代表	〃	宮城県障害者福祉センター、他 施設長
猪狩 公子	地域代表	〃	太白区山田町内会副会長
市橋 章子	地域代表	〃	食事サービスふたばの会代表
岡本 浩行	地域代表	〃	沖野学園学校支援地域本部スーパーバイザー
高橋 和	利用者家族	〃	八木山つどいの家利用者の家族
阿部 美佐	利用者家族	〃	仙台つどいの家利用者の家族
安室 むつみ	利用者家族	〃	つどいの家・コペル利用者の家族
橋本 幸子	利用者家族	〃	つどいの家・アプリ利用者の家族

*任期：平成31年4月1日から令和3年6月の定時評議員会終結の時まで

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容
第1回 R2.5.27 (水)	第1号 平成31年度事業報告に関する件
	第2号 平成31年度決算報告及び監査報告に関する件
	第3号 就業規則の一部改正案に関する件 <<概要>>新型コロナウイルスに関連し、自宅待機を命じた場合の賃金、休暇等の取り扱いについての改正案。
	第4号 令和2年度 定時評議員会の招集等に関する件
第2回 R2.6.15 (月) (書面評決)	第1号 管理者の人事案に関する件
第3回 R2.9.15 (火)	第1号 事業移行等にもなう就業規則、諸規程の一部改正案及び運営規程創設案に関する件 <<概要>> レスパイト事業の新事業移行にもなう諸規程等の改正案。
	第2号 令和2年度第一次補正予算案に関する件
	第3号 事業移行にもなう令和2年度事業計画案に関する件
	第4号 令和2年度第2回評議員会の招集等に関する件
第4回 R3.1.28 (木)	第1号 評議員選任・解任委員の選任に関する件 <<概要>>任期満了にもなう委員の選任
	第2号 令和2年度第二次補正予算案に関する件
	第3号 令和2年度第3回評議員会開催の省略に関する件
第5回 R3.3.16 (火)	第1号 管理職人事案に関する件
	第2号 運営規程の一部改正案に関する件
	第3号 非常勤職員等の処遇改善に伴う就業規則及び諸規程の改正案に関する件 <<概要>>同一労働・同一賃金の観点から非常勤職員等への手当の支給及び、副センター長の役職を設けることに伴う就業規則等の一部改正案。
	第4号 令和3年度事業計画案に関する件
	第5号 令和3年度当初予算案に関する件
	第6号 令和2年度第4回評議員会の招集等に関する件

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回(定時) R2.6.23 (火)	第1号 平成31年度事業報告に関する件	可決	評議員 5名 監事 2名 (WEB参加2名)
	第2号 平成31年度決算報告及び監査報告に関する件		
	第3号 定款の一部変更に関する件 <<概要>>レスパイト事業の新事業移行に伴う定款の一部変更。		
第2回 R2.9.30 (水)	第1号 経理規程の一部改正案に関する件	可決	評議員 7名 監事 2名 (WEB参加4名)
	第2号 令和2年度第一次補正予算案に関する件	可決	
	第3号 事業移行に伴う事業計画案に関する件	可決	
第3回 R3.2.10 (水)	第1号 令和2年度第2次補正予算案に関する件	可決	評議員 7名

(書面評決)			
第4回 R3.3.27(土) (書面評決)	第1号 令和3年度事業計画案に関する件 第2号 令和3年度当初予算案に関する件	可決	評議員 7名

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

開催なし(※選任・解任事案なし)

(2) 地域生活支援諮問委員会

開催なし(※新型コロナウイルス感染拡大等により年3回開催予定をすべて中止)

(3) その他の会議・委員会

部門	名称	実施回数	部門	名称	実施回数
主要会議	経営会議	11回	経営部門	事業運営会議	12回
	経営戦略検討会議	1回		防災委員会	5回
	人事委員会	17回		職員研修委員会	6回
	法人衛生委員会	6回	事業運営部門	日中活動支援事業部連絡会議	11回
	コペル衛生委員会	10回		地域生活支援事業部連絡会議	12回
	権利擁護・虐待防止委員会	5回		レスパイト事業検討会議	10回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	2回		ヘルパー事業検討会議	4回
	PT・OT連絡会	3回		相談支援事業検討会議	4回
	看護師連絡会	4回		日中活動支援事業検討会議	5回
	サービス管理責任者連絡会	4回	日中活動チーフ会議	5回	
	南北グループホーム連絡会	12回	居住支援等事業検討会議	4回	
	採用チーム連絡会	6回	※主たる内容や成果又は次年度への課題等については別添参考資料参照		
	総務ミーティング	35回			

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
R2.5.16(土)	事業年度(平成31年度)に係る業務執行状況及び財産状況	三浦監事 大谷津監事	計算書類と固定資産管理台帳との相違、権利等の減価償却処理、内部留保の必要性、職員の育成や初任研事業化等について確認。
R2.11.25(水)	令和2年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	大谷津監事	賞与引当金の処理や、固定資産の耐用年数、償却額1円の固定資産の有無等確認。

(2) 外部機関等による監査など

項目		監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政 監査 等	法人一般監査 ※実施なし	社会福祉法第 56 条及び同法 第 70 条等に規定する監査	—	
	集団指導 ※新型コロナウイルス感染拡大防止 のため集団講義なし(資料閲覧・Web)	各種法令関係、指定申請及び 指導監査、利用者への合理的 配慮の提供、情報公表システ ムの更新など	—	
	障害福祉サービ ス事業所等実施 指導 R2.8.25(火)	障害者総合支援法第 10 条及 び児童福祉法第 57 条の 3 の 2 に規定する実施指導 (対象事業所：ぺんたす)	監査員 4 名	指摘事項(文書・口頭とも)なし
	※その他事業所実地監査については実施なし			

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	令和 2 年度 利用総数	平成 31 年度 利用総数	平成 30 年度 利用総数	前年度比
生活介護	26,790(名)	27,500(名)	27,753(名)	△ 2.6%
特例生活介護・児童発達支援	3,341(名)	2,760(名)	3,253(名)	21.1%
自立訓練(生活訓練)	0(名)	0(名)	41(名)	—%
居宅介護	21,774.5(時間)	21,358.5(時間)	18,057.5(時間)	1.9%
重度訪問介護	1,047.0(時間)	1,382.0(時間)	1,470.0(時間)	△ 24.2%
行動援護	0.0(時間)	0.0(時間)	157.0(時間)	—%
同行援護	421.5(時間)	940.5(時間)	626.5(時間)	△ 55.2%
移動支援	6,581.0(時間)	11,505.0(時間)	13,628.5(時間)	△ 42.8%
障害者家族支援等推進事業	8,382(時間)	23,650(時間)	27,774(時間)	△ 38.1%
短期入所・日中一時支援	6,264(時間)	—	—	—
指定特定相談支援(計画)	437(件)	417(件)	430(件)	4.8%
〃(モタリング)	1,298(件)	1,172(件)	867(件)	10.8%
委託相談支援事業	4,512(件)	4,342(件)	3,516(件)	3.9%
障害児等療育支援事業(訪問)	75(件)	74(件)	182(件)	1.4%
〃(外来)	15(件)	17(件)	21(件)	△ 11.8%
福祉有償運送事業	82(件)	81(件)	62(件)	1.2%
共同生活援助	8,306(名)	8,238(名)	8,019(名)	0.8%

(注) 障害者家族支援等推進事業は令和 2 年 9 月 30 日をもって廃止。同年 10 月より短期入所・日中一時支援に移行

8 地域における公益的な取組の状況

社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、当法人が培ってきた専門性やノウハウ等を活かし、地域住民や関係団体、機関等との連携のもと、地域における福祉ニーズの把握に努め、社会課題の解決に向けた公益的な取組みを実践しました。詳細は、「IV 参考資料」に掲載しています。

9 職員の状況

(1) 職員数の現況と推移（令和3年3月31日現在）

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
235名	10名減	45.6歳	7年10ヶ月
(内 訳) 常勤112名、準常勤14名 非常勤79名、嘱託19名 登録ヘルパー11名	(内 訳) 常勤1名減、準常勤3名増 非常勤等12名減	(内 訳) 常勤 40.4歳 非常勤等 52.2歳	(内 訳) 常勤 9年4ヶ月 非常勤等 6年1ヶ月

(2) 入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	現役学生等	合計
常勤職員	2名(2名)	5名(3名)	0名(0名)	7名(5名)
準常勤職員	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)
非常勤職員	0名(0名)	7名(26名)	1名(3名)	8名(29名)
登録ヘルパー	0名(0名)	0名(2名)	0名(0名)	0名(2名)
嘱託職員	0名(0名)	2名(8名)	0名(0名)	2名(8名)
合計	2名(2名)	14名(35名)	1名(3名)	17名(40名)

【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1年未満	～3年未満	～5年未満	～10年未満	10年以上	合計	離職率
	常勤	1名 (1名)	0名 (2名)	3名 (1名)	2名 (3名)	2名 (5名)	8名 (10名)
非常勤等	3名 (9名)	16名 (5名)	1名 (2名)	1名 (7名)	1名 (1名)	22名 (24名)	20.2% (19.8%)
合計	4名 (10名)	16名 (7名)	4名 (3名)	3名 (10名)	3名 (6名)	30名 (34名)	12.8% (13.5%)

※（ ）内は前年度数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

- 就職説明会（法人独自）の開催や(大学・専門学校等)学内説明会の実施
 - ・法人就職説明会 2回 6名参加
 - ・大学学内説明会 5回 13名（WEB6名、対面7名）
- ハローワーク、県福祉人材センター又は民間団体主催就職説明会への参加
 - ・一般就職説明会 延べ4回 ブース訪問者数19名
 - ・高卒向け就職説明会 延べ1回 ブース訪問者数5名
- インターンシップ生の受入と大学キャリアセンター等との連携、照会など
 - ・インターンシップ生の受け入れ 1名

※コロナ禍で単位制のインターンシップや、しょうがいの理解を深めるために実施してきた学内へのゲストスピーカーが延期となる。各校・各学生の強みを活かしながら法人と学校が協働できることを検討する年とした。

- 「若者雇用促進法」に基づく『ユースエール認定企業』としての認定
 - ・2018年度に認定を受けた『ユースエール企業』の更新
- その他、求人広告やインターネット媒体等の活用、施設見学会の実施（随時）
 - ・採用に関する学生の施設見学者 18名

(4) 職員研修システムの遂行

<職 制>

月	日	項 目	内 容	参加者数
6	29	非常勤等 職員研修	第1部「医療と福祉」 第2部「コミュニケーション支援」 「グループワーク」 ・福祉サービスの知識と支援に対する視野を広げる。 ・多職種と連携しながら支援することの必要性を学ぶ。 ・研修を通じて職員同士の連帯感を深める。	中止
10	8	指導的 職員研修	「異業種に学ぶ～リーダーシップとチームワーク～」 講師：アイリスオーヤマ人事部 ・指導的職員がより高い目標を持って仕事と組織活動に参画できるように、知識、情報を習得する。 ・研修を通じて指導的職員同士の連帯感を深める。 会場：仙台つどいの家ホール	35名
12	18	全体 職員研修 オンライン	「つどいの家実践発表会」 各事業所の今年度の取り組みを映像等にまとめ発表 ・各事業所の取り組みを共有し、更なる連携と地域生活支援の確立に繋げる。 ・職員相互の活躍を称え合い、達成感を味わう。	120名
8	27	選択研修	重症心身障がい児・者の支援 講師：法人職員	7名
			発達障がい・自閉症の支援 講師：法人職員	12名
9	23		地域生活支援の役割とは 講師：法人職員	17名
			行政・アーチルとの連携 講師：北部アーチル職員	19名
10	27		自己決定・意思決定について 講師：法人職員	12名
			個別支援計画とは 講師：法人職員	5名
11	25		栄養指導 食育の大切さ 講師：若林区家庭健康課職員	20名
11	26		医療分野～医療的ケア～ 講師：法人職員	15名
1	22		介護技術Ⅰ（排せつ・食事） 講師：法人職員	6名
1	26		介護技術Ⅱ（車いす・シーティング） 講師：法人職員	中止
2	5		相談支援事業 ケアマネジメント演習 講師：法人職員	18名
2	24		事務について（財務・人事・労働法） 講師：法人職員	12名
3	11	全体 職員研修 オンライン	「311つながる力」 第1部「つどいの家 震災体験を語る」 理事長・通所系職員・地域系職員・法人本部職員による体験談 第2部「座談会」 震災で感じたこと、伝えたいこと等を共有	120名

<権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等>

- 内部研修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることを目的として、委員会主催の内部研修を実施。セルフチェックシートを用いて自己の支援や感情を振り返り、また他者と成功体験や福祉の仕事のやりがいを共有し、肯定感を高めあう機会とした。

(5) 相談支援従事者、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 1名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)の継続実施

- ・介護福祉士実務者研修受講 2名

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施(11月/190名より回答)
- ・一般事業主行動計画の更新(計画期間：令和2年4月から5年間)
- ・ハラスメント防止に関する方針と相談窓口担当者の選任・公表

Ⅲ 部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

A 総務部 1. 総務課

【 はじめに 】

新型コロナウイルス感染拡大が長期的に続く中、私たち法人がこの混沌とする社会情勢下においていかに振る舞い、社会的責任を果たしていくべきか。これまで当たり前とされてきた人と人との繋がりを創りながら、しょうがいのある当事者を中心とした地域コミュニティを構築していくために、これまで実践してきた様々な取組みをいかに続けていけるか。このコロナ感染拡大で様々なことに制限せざるを得ない状況にあっても、それにどう向き合い、法人の基本理念であるしょうがい者理解の促進や地域生活支援の拡充を図っていくべきかを問い、模索し続けた1年であったように感じます。

職員や利用者のご家族、地域関係者等との話し合いの場や交流活動等も感染拡大防止の理由で軒並み中止又は規模縮小を余儀なくされ、閉塞感と先の見えない不安感をそれぞれが抱えながら、職員のモチベーションを保ち続けることの難しさにも直面しました。

そのなかで、総務部として何ができ得るのかを所属職員間で確認し、共通認識を深めながら経営ビジョンに沿って取り組んで参りました（以下参照）。コロナ感染拡大により Web を活用したコミュニケーションの創出や研修機会の増加にも繋がりましたし、後援会や保護者会との協働により寄付金などの支援をより多くいただく仕組みづくりにも関わることができました。法人の持続可能性を高めるためには、まだまだ解決しなければならない課題も山積しますが、引き続き感染対策を講じながらスピード感をもって一つひとつ検証し、課題解決に努めてまいります。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

- 1 法人経営並びに地域生活支援事業拡充等に伴う資源創出等の検証に関すること ビジョン1
 - 一昨年度より検討を重ねてきた「中期経営計画 2020」を策定し、職員周知を行いました。
 - 介護員養成研修事業については、厚労省通知に基づき、コロナ感染拡大防止の観点からリモート参加を可能とするための環境整備を行い、事業の継続化に努めました。
 - 仙台市障害者家族支援等推進事業の給付事業等（短期入所、日中一時支援）への移行においては、事業費の獲得を巡って他法人と連携しながら行政折衝を重ね、一定の成果に繋がりました。
 - これまで同様に、成年後見制度を推進するため、利用者のご家族とともに勉強会を行い、また法人後見の現状把握を含め、その在り方について行政との意見交換の機会を持ち、かつ要望書提出に繋がりました。
 - 既存運営事業の持続可能性を高める観点から、事業再編を先に行った居宅介護等事業や相談支援事業の現状把握に努め、新たに顕在化した課題の抽出と改善に向けて取り組みました。
 - また仙台市障害者福祉センターの今後の在り方検討に伴う行政との意見交換を行いました。

- 2 地域社会や企業等から理解や共感を得るための取り組みに関すること ビジョン2
 - 支援者管理ソフトを有効に活用しながら、戦略的に寄付や非金銭的支援を得られる仕組みづくりに取り組みました。
 - 寄付金がどのように活用されたかをわかりやすく説明するため、いただいた方々への御礼を兼ねて報告書を作成し、2,000部を発行しました。
 - 後援会とともに、法人並びに後援会活動に興味関心を寄せ、広く社会から支援を得る仕組みづくりの検討に取り組みました。

- 同時に将来的に寄付者にとって減税効果が高い税額控除対象法人として認定を得るため、前述の後援会会員区分の見直し時に併せて、関係者間で税額控除等に関する学びの機会を創出しながら、一体感をもって、よりよい姿をともに模索しました。
- このほか、企業や社会貢献活動に取り組む市民団体や学生等との連携や協働を模索するため、積極的に研修会や交流会への参加に努めました。

3 法人経営の透明性を高め、社会からの信頼を得る取り組みを行うこと

ビジョン3

- 広報誌やホームページを活用し、適正な情報開示と情報発信を行いました。
- 支援者への説明責任を果たすため、寄付報告書の作成を行いました（再掲）。
- 法人内情報共有の在り方を模索し、特に Web 会議が行える環境整備と推進に努めました。

4 経営基盤強化のための財源確保、組織の機能性・効率性を高めるための取組み等

ビジョン4

- 基幹財源(障害福祉サービス報酬)を確保しつつ、さらに民間助成等が得られるよう情報収集と積極的な申請を行い、財源確保に努めました。
- また寄附金募集の内容等を見直し、使途目的等を明確にするなど、職員間での共通認識を深め、丁寧な説明に注力しました。
- 職員のやりがいや向上心を高めるため、研修体系の在り方を検討し、処遇改善等にも取り組みました。また、法人が運営する各事業所の取組みや抱えている諸課題などを職員間で共有し、相互理解と一体感を醸成しながら組織力を高められるよう、Web を活用して実践報告会や職員座談会を実施しました。
- 女性活躍推進法等の改正に伴い、ハラスメント防止対策を講ずるための整備や一般事業主行動計画の更新等を行いました。

5 事務職員個々のスキル向上への取り組み

ビジョン5

- 事務職員一人ひとりがチームの一員であることの認識を深め、個人及び組織の資質向上と活性化が図れるよう、内・外部研修を積極的に促し、全体的なスキルの底上げに努めました。
- 定期的な総務ミーティングの場を通して、地域社会に対する訴求力を高められるよう、事務職として必要な専門知識の習得に努めました。

総務部が担った諸会議の開催事務や広報活動等をはじめ、法人経営に関する様々な取組みについては、本書冒頭部分（Ⅰ～Ⅱ）を参照されたい。

B 日中活動支援事業部

2 仙台つどいの家 事業報告

【 はじめに 】

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、『地域を中心に人と人のかかわりの中で、利用者さんの役割を発揮しながら一人一人の思いの実現を目指す』というつどいの家がこれまで大切にしてきた営みが大きく制限された一年でした。地域社会のみなさんに利用者さんのこと・しょうがいのことを正しく理解していただく機会として重要な各種イベントや外出活動は軒並み中止になり、つながること自体が制限される中で、利用者さん・職員ともこれまで経験したことのないストレスを抱える状況でもありました。

そんな中でも、とんがらし通信や法人ホームページを介して仙台つどいの家の取り組みを紹介したり、後援会の募金箱回収・設置に出向いたり、わずかながらでも地域の方たちとの接点を紡ぎながら活動を展開してきました。また、感染の流行状況を注視しながら、法人全体研修会や実践発表会『すてーじ』を開催し、エンディング映像を地域の店舗とのかかわりの中で撮影できたことは、利用者さんにとっても職員にとっても大きな喜びでした。一方、なかなか外出できない状況を活用して、室内活動の充実に取り組むこともできました。職員を3グループに分け、グループごとに合同レクリエーションの企画を練って実施することとし、全4クールを行いました。企画力・職員間のチームワーク・事前の準備力・他グループ利用者とのかかわりが深まるなど様々な効果が見られました。また、法人事業所間をwebでつないでの交流会など、コロナ禍ならではの工夫ができたのも、今後の活動に生かせると思います。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 通信の発行・回覧により、地域社会・近隣住民のしょうがいのある方への理解促進に継続的に取り組むことができた。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- イベントは軒並み中止せざるを得なかったが、『かけこみ110番の家』は今年度も柘江小学校PTAの要請があり継続。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- コロナウイルスを含め感染者を一人も出すことなく事業継続ができたのは、看護師はじめ職員一人一人の高い意識があったため。出席率も例年と変わらず、給付費収入も安定していた。
- 細々とではあるが、物販など仙台つどいの家独自の収益活動を継続して実施できた。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 研修機会が少なかったせいもあるが、感染防止の観点からも積極的な研修派遣ができず、職員にとっては学ぶ機会が少ない一年であった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月1・2回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集、ご近所Pほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・過去の実習・研修報告 ・権利擁護・虐待防止委員会主催内部研修 ほか	(外部研修) ・コロナ関連 web 研修 ・3事業所（朋・青葉園・愛光園） 合同 web 研修会 ほか
--	---

< 行事等 > *感染拡大防止のため年度当初の時点で、コロナ対策会議によりほぼ中止の判断。

名称	開催日	参加者数	目的など
還暦を祝う会	9/30	90名	還暦のお祝い
すてーじ	12/22	100名+web50名	地域交流・地域貢献・啓発ほか

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	22	0	0	0	16	0	0	0	25	45	8	116
5月	13	0	0	0	16	0	0	0	40	43	10	122
6月	17	0	0	2	17	0	0	0	47	49	28	160
7月	13	0	0	4	17	13	0	8	33	51	19	158
8月	26	0	0	5	15	6	0	8	46	42	24	172
9月	28	0	0	6	16	0	0	5	29	47	40	171
10月	23	0	0	8	17	2	0	0	38	49	59	196
11月	29	0	0	15	13	0	0	0	20	43	35	155
12月	25	0	0	11	15	0	0	0	23	37	27	138
1月	24	0	0	1	14	0	1	0	36	38	32	146
2月	22	0	0	11	12	1	0	0	31	37	35	149
3月	22	0	0	13	22	0	4	0	19	38	15	133
合計	264	0	0	76	190	22	5	21	387	519	332	1816

< 利用状況等 > 「 IV 参考資料 」に掲載

3 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

2001年（平成13年）に開設した当事業所も20年目の年度を終えることが出来た。新型コロナウイルス感染症により様々な制限下での運営となり、これまで培ってきた関係機関とつながりが一時的に途切れてしまったことは否めない。反面、同感染症への対策を講じながら日中活動支援を継続すると共に、事業所内の環境や時間の流れを改めて見直す機会になったとも感じる。また、新たなつながりが生まれた年度でもあった。会議体やミーティングなどを通して意見交換を活発にし、そこで出たアイデアを具現化する過程を大切にしてきた。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- グループ単位、フロア単位での個別支援会議を実施し、一人の支援者が考えて実行する支援からチームで考え実行する支援への更なる転換を図った。
- 2階グループに所属する生活支援員の強度行動障害支援者養成研修受講を促進し、6名が新たに同研修の修了者となった。また、行動障害に特化した支援計画（支援シート）を作成し、一人ひとりの特性に応じた支援を実施した。
- 年度後半から毎月実施するグループ単位の会議にて、身体拘束の実施記録を確認する機会を設けた。個別支援計画において定型文化しつつあった身体拘束に関する表記についても、令和2年度に実施記録がない方については、削除することとした。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 事業計画で予定していた「東北福祉大学内講義でのゲストスピーカー実施」「七十七銀行沖野支店におけるアート展の開催」は新型コロナウイルス感染症の為、未実施。毎年実施していた沖野東小学校3年生との交流行事も中止となった。
- 公益的な取り組みの一環として、事業所敷地内にフードボックスを設置。提供いただいた食品をフードバンク仙台へ届ける活動を始めた。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 宮城県小規模法人のネットワーク化による協働推進事業に参画し、若林区内の社会福祉法人と課題を共有すると共に、具体的な取り組みとして職員交換研修を実施。また、交換研修の期間終了後に研修の感想を共有する為に合同研修会を開催した。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 一昨年に実施した給湯及び空調の設備更新により、年間で約50万円の電気ガス代を削減することが出来た。また、1階の一部と2階全体のLED化工事を実施。
- 仙台市重度重複障害者等受入通所施設等整備補助金（重度加算）対象者4名増。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 昨年度に引き続き、内部研修内で実践報告会を実施。常勤、準常勤職員が自らの支援をまとめ、人に伝える機会を持った。
- 労働施策総合推進法の改正に伴い職場におけるハラスメント防止対策が見直されたことを踏

まえ、外部講師を招いて内部研修でハラスメントについて学ぶ機会を持った。

- 医療に関する基礎知識を学ぶ為、テーマの連続性をもった全3回「医療的ケアの基本」「障害児支援」「医学的基礎知識（てんかんと脳性麻痺）」の内部研修を実施した。

○ その他の活動

- 新型コロナウイルス感染症対策とライフワークバランスの取り組みを兼ねて、1日のスケジュールを可視化し、業務時間内で業務を終わらせる意識を醸成。
- 衛生委員会にて、環境の改善、腰痛対策の実施、暑さ指数の共有、感染症予防など労働安全衛生に関する具体的な取り組みを行った。
- 非常勤ミーティングで上がった意見を基に、タイムスケジュールの見直し等を進めることが出来た。
- 自閉症に特化したグループを編成し、一人ひとりの利用者が「今」「ここで」「何をするか」を理解して一日を過ごせるように構造化への取り組みを始めた。
- 家族の意向、体調変化に伴い長期欠席が続いていたこと、本人の意向（ニーズ）などの理由から、3名の利用者が年度末で退所された。
- バザーは中止だったが、保護者会と協力し、区内農事組合法人から野菜を仕入れ販売する活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により、農事組合法人の方々も販売先に苦慮しているとのことであった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月1回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (全体・フロア・グループ)	月1～2回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有など
チーフ会議	月1回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など
グループ会議	月1回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月1回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
給食会議	年4回	食事提供にかかわる課題検討・意見交換など
喀痰行為安全委員会	月1回	支援員による医療的ケアの実施状況確認、評価確認など

< 内外部研修 >

内部研修	外部研修
<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント研修 ・しょうがいのある子どもの支援について (講演会 Web) ・疾患の基礎的な理解～てんかん発作・脳性麻痺～ (講演会 Web) ・実践報告会 ・法人職員研修（選択研修） 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生責任者講習会 ・強度行動支援者養成研修（基礎・実践） ・ハラスメント防止義務研修 ・介護技術ステップアップ講習会 ・仙台市社会福祉法人施設職員研修会 ・小児慢性特定疾病医療講演会 ・共生社会フォーラム ・宮城県社会福祉協議会 業務改善研修 ・社会福祉法人会計セミナー

< 行事等 >

*令和2年度の行事（町内会夏祭り、バザー等）については、新型コロナウイルス感染症対策のために中止としている。

見学・訪問者一覧 >

(R2.4.1～R3.3.31)

	一般来訪者	他事業所等 利用者び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内	法人内事業所職員
4月	17	0	0	3	0	0	0	0	8	11	55	94
5月	11	9	2	0	1	0	0	0	17	33	39	112
6月	24	7	14	3	2	0	0	0	1	18	105	174
7月	5	9	9	0	3	0	0	0	2	26	49	103
8月	37	1	8	0	1	0	0	0	3	15	65	130
9月	21	17	16	0	0	1	0	2	22	21	70	170
10月	9	4	0	1	0	4	0	3	2	19	71	113
11月	23	8	7	0	0	2	0	13	2	15	68	138
12月	11	0	0	2	3	0	2	7	0	16	52	93
1月	11	3	9	0	0	0	0	3	2	14	36	78
2月	16	12	14	6	0	0	0	9	2	27	46	132
3月	32	3	5	2	2	0	2	0	6	22	66	140
合計	217	73	84	17	12	7	4	37	67	237	722	1477

4 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

年度初めは、感染対策のため通所を自粛する利用者が増え、利用者の状況把握のために電話やメールで家庭との連絡をやり取りし、健康把握に取り組みました。日中活動においても直接支援を担当する職員にとっては、密を避けながら日中支援の展開をいかに工夫していくのかとても苦慮いたしました。6月になると少しずつ、自宅で自粛していた利用者においても通所できるようになり、利用者の笑顔と共に日常の生活に近づきましたが、送迎や食事・排せつの際の感染対策、嘔吐処理の研修など実施しながら、職員等に感染対策を講じていけるよう取り組みました。

人材育成では、アプリ職員間で全体研修及び自閉症の障がいのある利用者への支援について、研修会を実施しています。全国各地で、虐待案件の報告が後を絶たない現状がありますが、他人事として捉えることはできません。全国において、虐待発生要因に「教育・知識・介護技術等に関する問題」が第一に挙げられます。そのために、権利擁護虐待防止については、特に発達障がい・自閉症の障がい特性を理解したりや医療的ケアに関する勉強会を実施いたしました。当日は、経管栄養やペースト食などを体験する機会を設けたり、宮城教育大学の菅井先生に障がいの重い方たちのコミュニケーション支援というご講義を頂きました。言葉の多様性や共同注意という言葉が印象的で各職員もとても学びの場になりました。

地域との交流は少なかったですが、福祉講座やインターネットを介して、宮城教育大学の学生さんと交流を持つことができました。福祉講座においては、障がいのある人や高齢者の人とのかかわり方の理解を深め、社会や地域の一員として、共によりよく生活していくために自分ができることを考えるという内容で、地域の中学一年生を対象に実施しました。今後も、公益的な活動として、語りべ活動をして、学校に限らず、地域の方と一緒に考えていける機会を設けていきたいと思っております。

職場の働き方改革では、特に休憩時間について、グループによって差異が生じることが多々あります。利用者が通所している時間帯に休憩時間を確保する方向ではなく、通所前後に休憩時間をとれるようにある程度幅を持たせた休憩時間の設定で実施していきたいと考えています。

【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

○ 権利擁護推進のに向けた取り組み

- 本人主体・意思決定支援を重要視して取り組む（職員の支援力向上）
- しょうがい者週間の理解促進・啓発活動

経営ビジョン 1

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

- 地域における公益的取り組み（中学校職場体験前の出前講座実施など）
- 宮城教育大学ゲストスピーカー（web講習会）

経営ビジョン 2

○ 地域社会等からの信頼構築のための取り組み

- 地域行事への参画

経営ビジョン 3

○ 経営基盤を確立させるための取り組み

- 利用者の出席率維持と通所日数の確保

経営ビジョン 4

内 容	2020 年度目標	2020 年度 結果	目標数値の増減
アプリ利用者出席率	94%	88.6%	-5.4%
ミント利用者出席率	92%	83.3%	-8.7%
通所日数	245 日	242 日	-3 日

*出席率減：年度途中利用者の退所1名／新型コロナウイルス感染症拡大による通所減

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

- 自閉症研修の随時開催（コンサルテーション）
- アプリ内全体研修会の実施（権利擁護・医療的ケア・重度障がいのある人へのコミュニケーション支援 講師 宮城教育大学 菅井裕行先生）
- 感染症対策（感染対策講習会、物品の整理、環境整備等）

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分類	重点課題	具体的な取り組み	評価
労働環境	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化 ・環境整備及び計画的休暇取得 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間内における業務の工夫 ・勤務時間における事務業務の遂行 ・休憩時間の確保や時間外労働の軽減、年次有給休暇取得率アップに向けた職員の意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、施錠時間を提示し、長時間労働にならないように取り組む。 ・休憩時間の課題はあるが、年休消化率は高まった。日々、職員数不足に悩む。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月	事業所内の検討課題について協議
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催、自宅訪問等
全体懇談会	年3回	事業所の課題、保護者会との取り組みなど *新型コロナウイルス感染症対策のため、7月10月3月実施。密を避けるため、グループ単位で懇談会を行う。

< 内外部研修 >

<p>内部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ全体研修会（権利擁護・医療的ケア・重い障がいのある人へのコミュニケーション支援） ・防災備蓄品確認 ・消防部分訓練 ・嘔吐物処理訓練 ・アプリ実践発表会 <p>外部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止義務研修 衛生推進者講習会 障害者虐待防止研修 事務担当職員研修（Web） 	<p>労務管理研修</p> <p>ロジカルシンキング研修</p> <p>宮城県社会福祉協議会 研修セミナー</p> <p>強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）</p> <p>アスム療育支援センター 視察</p> <p>共生社会に関する基本理念等啓発事業（Web）</p> <p>厚生労働省障害者虐待防止・権利擁護事業（web）</p> <p>3 法人合同オンライン研修</p> <p>アーチル発達障がい基礎研修</p> <p>宮城県社会福祉施設 新任研修</p> <p>日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会（web）など</p>
---	---

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
福祉講話（人来田中学校） （中学一年生対象）	9月11日（金）	80名程度	障がいのある人とのかかわり方や理解を深め、社会や地域の一員として

			できることを考える。
宮城教育大学ゲストスピーカー (webにて実施)	1月19日(火)	148名	障がい理解を進める活動。
アプリ実践発表会(重度支援)	2月9日(火)	38名	ケース事例検討について実践発表

< 渉外・他 >

5/28 宮城大学 挨拶	1/6 宮城大学 打ち合わせ
6/25 グループホームにじいろの家 訪問	1/22 リーの会事務局 会議
7/15 ありのまま舎 訪問	2/11 GHつくしんぼ 訪問
9/14 FM たいはく	2/26 縄文の森広場運営懇談会 出席
9/15 ないとうクリニック 打ち合わせ	など
9/18 なごやかネット	
11/30 宮城教育大学 打ち合わせ	

見学者・来訪者一覧)

(令和 2.4.1~令和 3.3.31)

	一般来訪者	他事業所等利用者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	15	0	0	1	0	0	0	1	2	57	11	87
5月	18	0	0	2	0	0	0	0	1	52	4	77
6月	11	0	4	5	0	0	0	4	6	50	17	97
7月	10	0	4	1	0	7	0	6	7	60	23	118
8月	39	0	9	4	0	0	0	16	7	67	16	158
9月	39	0	9	4	2	0	0	6	7	64	23	154
10月	23	0	1	1	0	0	0	11	4	64	16	120
11月	12	0	0	4	0	0	0	10	4	51	8	89
12月	11	0	3	8	6	6	0	0	7	54	25	120
1月	11	0	0	4	0	0	0	0	4	56	17	92
2月	27	0	0	3	0	0	0	0	5	53	16	104
3月	54	0	8	0	0	0	1	6	11	45	20	145
合計	270	0	38	37	8	13	1	60	65	673	196	1361

5 八木山つどいの家 事業報告

○ はじめに

平成28年10月生活介護へと移行して、5年が経過。今年は新型コロナウイルスの影響が甚大であり、地域交流イベント中止や喫茶店の店休など大きな影響を受けた。利用者への影響も大きく、感染リスクを抑えるために通所を2ヵ月控えた方もいた。八木山つどいの家の強みでもある公共交通機関での外出活動、地域住民との交流を通してのしょうがい理解の醸成、関係団体との連携などを行うことができなかった。その半面、東北工業大学からのWEB授業形式のゲストスピーカーや、事業所間でWEBを通して行う各種会議など、新しい試みを行うことが出来た。例年、「新成人を祝う会」も来賓を呼んで盛大に行っていたが、規模を縮小せざるをえず苦慮したが、一年を通してご本人と二十歳について考える年にするなどの新しい取り組みを行った。その結果、河北新報へ掲載されたりと少なからず地域へ発信することができた。

喫茶についても5年が経過。コロナウイルスの影響により、3ヵ月間店休することとなった。年度途中で喫茶専属で入っていた利用者が、他法人の所属するGH縮小に伴い退所することになった。そのため、喫茶について話し合いを多く行った年でもあった。利用者の思いを取り入れたメニューの開発・提供ができた事は大きな成果となった。環境面や職員体制など課題が山積しているが、この一年でこれからの喫茶やまかぜのベンチの方向性が見えてきたように思う。喫茶を通してしょうがい理解を醸成すると共に、地域のお店として気軽に利用してもらえよう展開していく。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 東北工業大学ゲストスピーカーを通してしょうがい理解の取り組みを行う事ができた。(WEB)
- 権利擁護・虐待防止委員会主催のポスター作りなどで利用者本人への意識啓発へと繋がった。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域交流行事等は中止となった。
- 実践発表のインタビューを通して、連携をさらに強める事ができた。
- 次年度への足掛かりになる「こども食堂」開催に向けた準備を進めた。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 町内会、防災連絡会、学校等と連携。
- コロナ感染対策を徹底しつつ、喫茶営業を行った。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 新規利用者獲得に向け、学生等の実習を積極的に受けた。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 積水ハウスの『e-ラーニング』への登録を行い、WEB研修を行える環境を構築。
- 外部講師をお呼びしての「防犯講習会」開催。

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的取り組み	実績と結果
コミュニケーション支援	可視化による意思伝達の工夫。 丁寧に意思確認や意思決定支援を行なう。	小さな旅クラブや生活クラブなどの取り組みの中で進める予定であったが、コロナの影響により活動ができなかった。
家族との連携	将来の生活について話し合う。施設懇談会や行事へ家族参加を促す。(茶話会、施設見学等)	施設懇談会を中止した時期もあった。2年続けて(1年目台風、2年目コロナ)でバザーが中止となった。
健康管理	看護師、嘱託医、主治医との連携	嘱託医と連携を取り、コロナに関

	通院同行、グループホームとの情報交換。	しての情報やインフルエンザワクチンの確保など協力して行う事ができた。
作業品開発・アート作品商品化プロジェクト	美術系学生や手芸作家にボランティアとして参画を促す	・コロナ禍の為、学生との交流を持つことができなかった。
地域交流行事との連携 (地域住民、小学校・中学校との交流)	一丁目公園祭りにて子ども向けワークショップ開催。 八木中祭で空教室にてワークショップ開催。	・コロナ禍の為、行事やイベントが中止となった。
活動ボランティア 喫茶ランチタイムボランティア	地下鉄沿線大学の学生や地域住民の活動ボランティアを募集。 喫茶ランチタイムボラ募集。	・コロナ禍の為、ボランティアの募集を行うことができなかった。
地域交流室のギャラリー化	喫茶室にピクチャーレールを設置し、定期的にアート展を開催。	・地域交流室にて「はたち展」、写真クラブの写真の掲示等で活用。地域の方にも見てもらう機会になった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	年回	予定確認、グループ特記、行事進捗、ケース会議議題検討、内部研修テーマ検討、他
月案調整会議	月1回	活動場所調整、支援体制調整、配車、食数確認、他
職員会議	月1回	予定確認、会議・委員会報告、行事確認、検証、内部研修、他 ※今年度より全職員参加に形式を変更
ケース会議	月1～2回	個別支援計画、ケース特記、ケース記録まとめ、事例検討、他
非常勤等連絡会 (全体・喫茶)	月1回 (隔月)	情報共有、喫茶・厨房・事務の連携、イベント検討、季節メニュー検討、他

< 内外部研修 >

<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害支援者研修(基礎・実践) ・産業保健研修「ハラスメント防止義務」 ・産業保健研修「メンタルヘルス不調者の職場復帰の進め方」 ・会計担当職員研修 ・コペル内部研修へ参加(WEB) ・社会福祉協議会主催「事務職員研修」 ・社会福祉会計簿記講座2020 ・ハンズせんだい「福祉講座」講師 ・内部研修「防犯講習会」 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人向け危機管理セミナー ・アーチル主催「行動上の難しさのある事例への実践を考える」 ・内部研修「選択研修：地域生活支援の役割について」 ・内部研修「指導職研修」 ・社会福祉協議会主催「コロナについて」 ・アプリ内部研「ガウンの着脱について」 ・就労支援事業所への「性支援」講師
--	--

< 行事等 >

名称	開催日 (頻度)	参加者数	目的など
八木山つどいの家バザー	年0回	0名	地域交流、保護者会との連携、収益 コロナ禍の為、中止
ミニバザーこの市とまれ	年0回	0名	コロナ禍の為、中止
生協販売会	1回	4名	利用者主体の手作り品の販売
イエローシートキャンペーン	0回	0名	イオン来店者との交流 コロナ禍の為、中止
一丁目公園祭り	年0回	0名	町内会との交流、児童との交流 コロナ禍の為、中止
八木中祭	年0回	0名	中学生との交流、学校との連携 コロナ禍の為、中止
八木山市民センターまつり	年0回	0名	アート作品の展示、展示説明

			コロナ禍の為、中止
八木山フェスタ	年0回	0名	地域交流、団体との連携、喫茶営業 コロナ禍の為、中止
コンサート	年0回	0名	地域交流、演奏家の発表の場 コロナ禍の為、中止
手つ学カフェ	年0回	0名	地域交流、地域課題の共有 コロナ禍の為、中止
イオンサンタ訪問	年1回	0名	地域交流、季節行事 コロナ禍の為、担当者より物品の寄贈のみ

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

4/23	運転手面談	10/13	ピーススマイルより実習
5/12	運転手面談	10/16	サッシ見積り (三井サッシ・横弘建築) 来所
6/10	マスク寄付 (八木山防災連絡会) 明治安田生命担当者来所	10/30	仙台市建物検査
6/17	アート作業品受注の松宮氏来所	11/4	仙台つどいの家実習 (2名)
7/3	東北工業大学ゲストスピーカー	11/10	ALSOK 設備点検
7/7	視覚支援学校実習	11/19	防犯協会担当来所
7/28	河北新報取材「はたち展」取材	12/15	イオンサンタ来所 (イオン鈎取店)
8/18	横弘建築来所サッシ現調	12/21	ミニコンサート
8/21	北部アーチル来所 (重度加算調査)	12/23	サッシ取り付け工事
8/24	南部アーチル (来所) 利用者面談	1/22	グリストラップ清掃
9/8	八木山消防署来所 (設備点検)	2/3	小松島支援学校実習
9/18	サポート菰、太白区障害高齢課来所	2/4	若林障害者福祉センター実習
10/16	仙台大気堂来所 (パーティーション設置)	3/9	仙台市建物点検 (地震被害調査)
10/9		3/24	リース物品の入れ替え (大気堂)

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実 習 者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法人内	寄付・寄贈	小 計
4月	0	0	1	2	1	0	0	6	1	11
5月	0	0	2	0	1	1	2	5	0	11
6月	0	2	19	7	2	4	1	8	0	43
7月	3	4	56	6	3	9	2	11	1	95
8月	6	0	44	10	5	11	0	1	0	77
9月	12	0	24	4	3	14	5	4	0	66
10月	7	2	74	2	9	19	1	7	0	121
11月	0	2	49	12	3	8	6	5	0	85
12月	0	0	44	0	0	10	13	12	0	79
1月	3	1	57	4	4	8	5	10	0	92
2月	0	4	44	0	7	5	9	10	1	80
3月	3	1	28	9	11	8	1	9	0	70
合計	34	16	442	56	49	97	45	88	2	829

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

5 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に迫られた1年であった。令和2年2月、法人の感染症予防対策として活動の縮小・自粛を余儀なくされ、感染症の本質が完全に見えなかった当時、活動の変更を利用者へ伝えた結果、楽しみにしていた活動を行なえなくなった戸惑いに涙する利用者があり、胸を締め付ける思いが全職員に去来していた。

利用者支援においては、入院加療中であった利用者1名が亡くなり、コロナ禍の面会が出来ない中での見送りは悔いが残る出来事であった。年度末には長期欠席が続いていた1名の利用が終了となり、相談支援事業所など関係機関と連携を図りながら支援を行なっていたが、家族以外の支援者のかかわりを拒むという特性から対面での支援が行なえない中での終了は、日中支援としての役割を考えさせられる事となった。一方、新たに2名が利用を開始した。利用者のしょうがい特性の理解とそれに応じた環境整備など、利用者本人に関係しているヘルパー事業所や相談支援事業所などにも幅広く浸透させる必要性を感じると共に、私たちもしょうがい特性の十分な理解、本人・家族を深く知る重要性を改めて考える機会となった。

また、一昨年より一部職員の定着が難しく、年度途中で退職に至り、しょうがいのある人の支援のやりがいを十分に伝えられないもどかしさを抱える事となり、人材育成の難しさを痛感し、より良い工夫が求められていると感じている。

【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 意思決定支援を大切にし、支援者個々が日常支援の中でセンターを取り巻く環境や社会情勢の把握に努めながら、権利擁護について自分自身の問題ととらえ、権利擁護の意識の醸成を図った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 定期的な会議の場で協議する機軸があったが、新型コロナウイルス感染症予防の為、取組みが出来なかった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 関係性を作り、構築するまでには至らなかったが、普段の活動を通し出来得る限り地域に出向いてしょうがい理解を求めた。

○ 財政基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- センターは、市の委託料により事業を展開している事もあり、職員(支援者)が法人内の他事業所に異動しても常にコストを意識し、経費のムダを省く行動を身に着けるよう努めた。

○ 人材育成及び研修等への取り組み

経営ビジョン5

- 個々の職員(支援者)に必要とされる基本的知識や支援力向上のため或いは利用者との関係の中で求められる技能の習得に努め、一体的に運営している仙台市障害者福祉協会の看護師に協力を得、医療的ケアについて学ぶ機会を設けた。

【 その他重点的な取り組みと成果等 】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
(1) ケアマネジメントの視点を常に意識した支援の実施	個々のしょうがい特性や家族の状況に則した支援を実施するために、丁寧な情報収集と課題を把握する。	その場の対応で終了せず、個々のしょうがい特性に応じた支援に反映された。
(2) 地震以外の大規模災害も想定した取り組み	居住地域の災害危険予測や災害時の避難ルートを本人家族と共に想定する。	災害時の避難ルートを本人家族と共に想定するまでには至らなかった。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支援会議	1回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など *仙台市障害者福祉協会看護師参加
職員会議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月案会議	1回/月	活動の計画、体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
看護師連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
給食連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

- ・医療的ケアの基本
- ・医療的ケア事故想定対応訓練
- ・新任職員研修
- ・危機管理実務セミナー
- ・強度行動障害支援者養成研修
- ・発達障害成人期講座
- ・仙台市障害者福祉センター職員共通研修

< 行事等 >

新型コロナウイルス感染症予防対策にて、未実施

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

C 地域生活支援事業部

7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告

【はじめに】

ヘルプ事業は新型コロナウイルス感染防止のため、移動支援は外出先の限定や時間制限等が必要となり、利用減少が長期化した。居宅介護の利用は安定的だが、感染リスクが高いため感染防止策を講じながら支援にあたってきた。

レスパイト事業は10月より日中一時支援・短期入所事業へ移行し、実施場所の集約、ソフト導入にて業務効率化を図った。感染防止では3密を避けるため、人数制限により日中・宿泊共に利用調整で断るケースあり。宿泊ニーズや緊急宿泊に対応できるようスプリンクラー設備や介護リフト機器の導入を検討した。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

・権利擁護虐待防止委員会を中心に内部研修を実施し、差別や虐待、合理的配慮等について職員自身の日々の支援や社会参加する中での気づきについて意見交換を行った。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

・地域交流スペースの活性化を検討する場「南光台サロンを考える会」や「親子向け体験型イベント」を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染防止のため、事業所主催イベントは中止した。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

・新型コロナウイルス感染防止のため、地域や他団体のイベント等は中止となった。コロナ禍での地域との関わり方に工夫要す。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

・法人で取り組む介護職員初任者研修の受講者が、ヘルパーの応募や法人職員としてつながるようになってきた。また、大学等へ介護人募集を働きかけたことで応募者が続き、現在活躍している。
・レスパイト事業連絡協議会を通し連名で要望し、日中一時支援、短期入所事業の1対1体制加算等を獲得した。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

・ヘルパー連絡会は定期的に開催、介護人連絡会の頻度は少ないが意見交換や気づきを話し合うよい機会になった。また、法人職員研修の選択研修に主体的に参加する登録ヘルパー、介護人も増えつつある。
・内部研修ではリーダー間で協力し合い研修テーマを設定し、実践発表会の準備に取り組み、事業所内の連帯感が高まった。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
リスク管理	避難訓練、救急車要請訓練、行方不明対応訓練等の実施 安全委員会で医療的ケアの研修等の実施	マニュアル確認を通し実践に生かすことができた。安全委員会を看護師参加で行った。
公用車管理 安全運転	運行前免許証提示及び運行前点検励行 事業所間の配車計画と車両整備 車両管理台帳の整備	送迎時の運行前点検が定着した。 車両借上げ制度の見直しを行なった。
地域交流の場	利用者のアート作品を定期的に交換展示 サロン室利用案内を作成し配布	コロナ禍につき実施見合わせ。
地域貢献	南光台第二町内会清掃への参加 三丁目公園の自主清掃の取り組み	コロナ禍につき実施見合わせ。
循環型の 取り組み	太陽光パネル蓄電池の電力活用 事業棟及び事務棟の節電推進 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進	コロナ禍につき換気や加湿が不可欠で節電は難しかった。 資源のリサイクルに取り組めた。
働きやすい 環境整備	挨拶運動と休憩スペースの工夫 ワークライフの推進	コロナ禍につき感染防止策や消毒等を推進した。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月1回	構成員：管理者・事務員・各事業チーフが参加 内容：各事業の現状共有・課題検討等
職員会議	月1回	構成員：全職員（※登録ヘルパー・介護人除く） 内容：会議委員会の情報共有・課題検討、ヒヤリハット共有等
ぺんたす会議	月1回	構成員：ぺんたす職員（※登録ヘルパー除く）、管理者 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等
すてっぷ会議	月1回	構成員：すてっぷ・はうす職員（介護人除く）、事務員、管理者 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等
サビ責連絡会	月1回	構成員：サービス提供責任者 内容：業務の連絡調整、ヘルパー連絡会の確認事項等
安全委員会	月1回	構成員：サービス提供責任者、医療的ケア職員、管理者、看護師 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有等

< 地域交流室 >

すてっぷ サロン	コロナ禍だが、サロンスペースを地域住民や団体に開放（有料）を継続する。但し、利用時間短縮、食事をしないことの制限を設ける。
-------------	---

< 内部研修 >

コロナウイルス感染防止研修（県看護師協会講師派遣）
権利擁護・虐待防止研修

< 外部研修 >

強度行動障害支援者養成研修オンライン（基礎編・実践編）
セールスフォースオンライン研修
新型コロナウイルス感染防止 BCP オンライン研修

<利用状況等> 「Ⅳ 参考資料」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

【 はじめに 】

相談事業「とびら」は委託・計画の件数が増加し続け、新規相談の対応が難しい状況にある。相談内容が複雑かつ複合化し、ケース終結になかなか至らないことも影響している。相談体制等を見直す内部検討を重ねてきた。市に対し青葉区内に委託相談事業所を増やすよう要望を続け、区自立支援協議会や基幹相談支援センターと課題を共有した。また、業務効率化を図るためにソフト導入を進め、次年度より具体的に運用する。コロナ禍においては、感染防止のため訪問の時間短縮や電話対応、オンラインなど変化が求められた。

レスパイト事業は10月より日中一時支援・短期入所事業へ移行した。感染防止の3密を避けるため人数制限が必要となり実績は伸びず。ソフト導入で業務の効率化を図っているが、事業集約により事業所間の行き来や送迎に要する時間、利用場所の調整など支援体制の複雑さがあり、より工夫が求められる。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- ・法人内権利擁護虐待防止委員会主催の内部研修を実施し、職員相互の意識向上につながった。
- ・区自立支援協議会を通じて、困難事例をもとに権利擁護に関する課題解決に向けて取り組んだ。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- ・区自立支援協議会の各会議へ参加し、関係機関や他事業所と顔の見える関係づくりに努めるが、コロナ禍で人数制限や延期等で機会は減少した。
- ・地域包括会議や他職種連携の会議は少人数での開催又は中止や書面での意見集約となる。オンライン会議は普及しつつあるが、開催頻度は少なくネットワーク形成は広がらず。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- ・支倉通信は業務負担を軽減するため年2回発行、配布先拡充及びホームページ更新には至らず。
- ・コロナ禍で地域向け講座は見合わせ。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- ・事業の継続的運営を見据え、法人内相談事業所間でケース移管を検討した。
- ・加算取得のため相談体制の内部調整を図り、特定事業所加算ⅢをⅡに変更。
- ・レスパイト事業連絡協議会を通し連名で要望し、日中一時支援、短期入所事業の1対1体制加算等を獲得した。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- ・コロナ禍で利用制限もあり介護人の新規募集には至らず。介護人連絡会を開催し、課題やスキル等を共有した。
- ・外部研修はコロナ禍で減少したが、相談員業務に必須の研修を優先にオンラインで受講した。
- ・県看護師協会の講師を招き、コロナウイルス感染防止に関する研修を実施した。

<その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価>

重点課題	具体的取り組み	評価
相談支援の質の向上	OJT や研修参加により全体のスキルアップを図る。	オンラインにて強度行動障害研修、相談支援従事者研修（初任者）を受講した。
青葉区における地域づくり貢献	区や委託・指定相談事業所との連携を通し市へ課題提起を行なう。 青葉区自立支援協議会への参加。	自立支援協議会事務局として運営会議に参加した。相談支援連絡会は月毎に交代で参加した。
サービス等利用計画作成	他指定相談事業所へ計画作成依頼とケース移管を進める。 計画作成を通し地域課題を抽出する。	ケースの他事業所移管は進まず。法人内の調整は段階的に進める。新規受入れが難しい状況は続く。
事業内情報及び支援の共有	相談員ミーティング、事例検討会議実施 外部研修への参加と伝達講習や回覧。	相談員ミーティングを定期的実施した。今後の方針、課題の共有等を行なうが、ケース数が多く、支援の検討が深まらない傾向あり。
事業内情報共有	利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等を共有する。	日中一時支援は勤務不規則で連携の難しさあり。法人職員研修「実践発表会」「311つながる力」研修で連帯感を味わい有意義だった。
職員、介護人質の向上と人材確保	介護人連絡会の実施とボランティアサークルと連携イベントの開催。 近隣へ介護人募集のチラシを設置する。	介護人連絡会やレスパイト連絡協議会による研修会を実施した。コロナ禍につき、学生とのつながりは見合わせ、新規募集は行なわず。
環境整備	居室、水回り等の等の衛生管理、必要備品整備、薬品等の適切保管を行なう。	建物内外の整備、破損箇所の修繕。コロナ感染防止の環境整備に努めた。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週1回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年2回	全ケースの状況を確認、終結の検討、ケースの中断の防止
だいちミーティング	随時	情報共有と支援方針検討
チーフ会議	月1回	管理者、総務、相談、レスパイトで情報共有
職員会議	月1回	全職員で情報共有と協議事項の検討

< 内外部研修 >

< 外部研修 >

コロナウイルス感染防止研修 （県看護師協会派遣講師） 権利擁護・虐待防止研修	強度行動障害支援者養成オンライン研修（基礎編・実践編） 相談支援従事者研修（初任者研修） 新型コロナウイルス感染防止 BCP オンライン研修 会計講座 サボネットあおばの集い
--	---

<利用状況等> 「 IV 参考資料 」に掲載

9 地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告

【実施事業】

- (1) 障害者相談支援事業「くれよん」※一般、指定特定、療育支援
- (2) 障害者家族支援等推進事業「すきっぷ」※遠見塚と南小泉の二ヵ所を実施
- (3) ホームヘルプサービス事業「びぼっと」※グループホームにおける居宅介護
※個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応する事業所
- (4) 共同生活援助事業「ひこうき雲」※グループホーム5ヶ所

○ はじめに

障害者家族支援等推進事業（レスパイト）はこれまで仙台市の補助事業として実施してきましたが、仙台市の方針により10月に日中一時支援、短期入所へ移行しました。昨年度末以降、新型コロナウイルスの影響による利用のキャンセルや利用控えが多くありました。相談支援事業においてもコロナ禍の影響は大きく、対面を伴う会議（サービス等担当者会議、モニタリング等）が開催できないことがありました（一部は電話にて実施）。外部研修の機会も昨年度に比べると大幅に少ない状況でした。今年度はこれまで以上に法人内相談支援事業所（とびら）との連携を図りました。ヘルプ事業は相談事業、グループホームと連携し、居宅介護時間数の安定的な確保に努めました。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 職員会議や内部研修等において、権利擁護に関する研修を行うとともに自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。

権利擁護内部研修（11月）において、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域行事へ参加し、交流を図る（資源回収、地域清掃、地域防災訓練、会報の発行等）。
- 地域の関係機関との協働（近隣の関係機関、町内会等）。
- 地域住民との交流ができるような取り組みを行う（講座、サロン等）（年4回）

今年度はコロナ禍のため町内会行事等が中止となり、地域交流の機会をもつことはあまりできませんでした。地域住民との交流ができるような取り組み（講座、サロン等）を予定していましたが、コロナ禍のため取り組みはできませんでした。次年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでどのようなことができるのかを考え、取り組んでいきたいと思っております。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 事業所としてのBCP（事業継続計画）やグループホーム（沖野地区）における洪水時の避難計画、緊急対応（行方不明等）の見直し及び整備を図る。
- 大規模震災や火災を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- 地域住民との交流ができるような取り組みの実施。
- 通信を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。

通信（「ぼけっと」）を年3回発行し、情報の発信を行いました。地域交流等の取り組みについては、今年度は取り組むことができなかったため次年度実施できるよう準備をすすめたいと思っております。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 仙台市障害者家族支援等推進事業の在り方について法人内3か所のレスパイト事業所と連携し、検討する。
- 居宅介護の利用実績の安定（特定事業所加算と連動）
- 報酬改定に対する情報の収集、整理

法人としては障害者家族支援等推進事業（レスパイト）の継続を要望しましたが、10月に障害者家族支援等推進事業（レスパイト）は、日中一時支援、短期入所へ移行しました。実施事業所の拠点は主にすてっぷ・はうす（びぼっと南光台）、だいち（びぼっと支倉）となりましたが、緊急対応等ですきっぷでの実施が数回ありました。今後も実施場所の拠点となるすてっぷ・はうすと連携が必要となります。居宅介護においては、特定事業所加算の取得の準備を進めましたが、今年度は取得できなかったため、次年度の取得を目指し準備をしたいと思えます。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- ピボット若林（くれよん/すきっぷ/びぼっと）、GH管理センター（ひこうき雲）の4事業間の連携による人材育成。
- 介護人連絡会等の実施により介護人の育成に努める（だいち・すてっぷと連携）。

コロナ禍のため外部研修の開催が中止となり、今年度は外部研修へ参加する機会はあまりありませんでした（下半期になりオンラインによる研修へ参加）。毎月の職員会議では内部研修（内容は下記参照）を実施し、継続して学ぶ機会を設けました。

介護人連絡会については、3事業所合同により年2回開催しました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 区自立支援協議会、サロン、カフェ等への参画	地域課題の抽出と整理、関係機関との連携	地域ネットワークの構築を目標としましたが、コロナ禍で開催中止となり、サロン等へ参加する機会はありませんでした。
(2) レスパイト事業の今後について	現制度の見直し、事業所間の連携（レスパイト連協）	レスパイト連協と連携し、日中一時支援、短期入所へ移行した場合の加算の創設等を要望しました。送迎加算、1対1支援加算等の加算が創設されました。
(3) グループホーム管理センターとの連携	ピボット若林全体の内部研修等の実施	内部研修については、ピボット若林、グループホームそれぞれで実施し、全体で行うことはできませんでした。グループホーム管理センター併設により事業間の連携を図ることができました。
(4) 地域住民との交流ができるような取り組み	講座、サロン等の実施（年4回） （びぼっと支倉とびらとも連携）	地域社会、地域住民との交流を目標としましたが、コロナ禍のため講座、サロン等の開催はできませんでした。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月 1 回	予定、法人関連・各事業進捗、会議・委員会報告等
チーフ会議	月 1 回	P 若全体確認事項、法人関連・各事業進捗等
各事業会議	月 1 回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリハット・事故確認、ケース関連等
ケースレビュー、事例検討	レビュー月 2 回 事例検討月 1 回	相談員が個別に対応しているケースについてチーム内の情報共有及び検討
区自立協運営会議	月 1 回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年 2 回	区の障害福祉関係者の交流（顔の見える関係作り）、各種情報共有と課題解決
仙台市レスパイ事業連絡協議会	隔月	レスパイト事業全体の課題及び人材育成（職員交換研修、全体研修会等の企画等）

< 内部研修 >

◇職員会議

- ・「新型コロナウイルス どう守る？障害者の暮らし」（NHK ハートネット TV より）（5 月）
- ・「たけし 自立生活ははじめました～重い知的障害のある人の新しい暮らし」（NHK ハートネット TV より）（7 月）
- ・ダウン症の中年期～症状と特性（8 月）
- ・「嫌なことと信頼」（ゆにぷる通信より）（9 月）
- ・「相模原事件から 4 年～重度障害者の暮らしの選択は」（NHK ハートネット TV より）（10 月）
- ・権利擁護内部研修（11 月）
- ・「知的障害がある人の自立生活～ウイズコロナの自立生活（NHK バリバラより）（12 月）
- ・「市中感染、家庭内感染はこうして防ごう～施設職員のための注意のポイント（厚労省感染症対策オンライン研修）（1 月）
- ・「施設・事業所職員のための今日からできるメンタルヘルスケア（厚労省感染症対策オンライン研修）（2 月）
- ・「保健所の活用の仕方～どんな時に頼ればいいのか」（厚労省感染症対策オンライン研修）（3 月）

< 外部研修 >

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修に関わる企画会議（福地） ・精神保健福祉基礎講座（山口） ・不登校児童生徒への支援（遠田） ・アーチル発達障害基礎講座（福地） ・障害者 GH セミナー（感染対策）（オンライン）（福地,遠田,嶋田） ・発達障害児相談支援スキルアップ講座（嶋田） ・障害基礎年金について学ぼう（嶋田,山口） ・障害福祉サービス事業者向け BCP 研修会（オンライン）（佐藤靖,福地） | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設事務担当職員研修（半沢） ・市社協労務管理研修（半沢） ・社会福祉会計簿記講座（中級）全 4 回（半沢） ・安全運転管理者講習会（飯田） ・GOEN ユーザー勉強会（半沢） ・採用 HP 作成ポイントまるわかりセミナー（半沢） ・セールスフォース導入、活用サポートセミナー（半沢） ・2020 企業の社会貢献 CSR セミナー（オンライン）（半沢） |
|---|--|

10 グループホーム 事業報告

【実施事業】

(1) 障害福祉サービス事業（共同生活援助5ヶ所/ひこうき雲）

○ はじめに

グループホームでは、現在入居者24名（男性15名、女性9名）が暮らしています。今年度はコロナ禍のためグループホーム内で過ごす時間が増え、それ故入居者の方のストレスは多かったことと思えます（現在もコロナ禍のため外出等の制限は継続中）。コロナ禍がいつ終息するのか分からないため、入居者の方への説明も難しさがありました。そういったなかで入居者の方が少しでもグループホーム内での過ごしを楽しむことができるようにと店屋を開いたり、身体を動かしたりいろいろと工夫をしながら日々を過ごしました。

年々入居者の高齢化等により介護負担が増えています。今年度は介護負担軽減のために「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業費補助金」を活用し、入浴用リフト・ベッド用リフトを設置しました。今後も積極的に介護負担軽減のために機器等を活用していきたいと思えます。

職員間の情報共有のために各グループホームへiPadを整備し、「チャットワーク」により情報の具現化、可視化を図りました。まだ導入して間もないため、次年度は職員間で運用できように進めていきたいと思えます。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 各ホーム職員会議や職員全体研修会において、権利擁護に関する研修を実施するとともに自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
- 入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす。

職員全体研修会ではセルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。さらに、権利擁護内部研修ではグループワークを通して自らの支援を振り返る機会を持ち、また他者と成功体験や福祉の仕事のやりがいについて話し合いました。10月には宮城県看護協会派遣講師（感染管理認定看護師）によるグループホーム職員を対象とする新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会を開催しました。

入居者懇談会は入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。「グループホームでいきいきと」（日本GH学会）を活用しながら、グループホームの暮らしについて入居者が感じていること等の聞き取りを行う機会を持ちました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。

昨年度は地域とつながることができるよう町内会活動（夏祭り、防災訓練、地域清掃等）に参加しましたが、今年度はコロナ禍のため町内会行事等が中止となり、地域交流の機会をもつことはあまりできませんでした。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 大規模震災や火災、洪水を想定した避難訓練を計画的に実施する。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。

各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。また新型コロナウイルス感染拡大防止のためのゾーニング（生活空間の区分け）に関する指導を宮城県看護協会派遣講師（感染管理認定看護師）から受けました。万が一グループホームで新型コロナ

ウイルスが発生した場合に備え、各グループホームのゾーニングの可視化や衛生物品の備蓄を行いました。

グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信を行いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

● グループホームにおける居宅介護の積極的活用による運営

国の施策（グループホームへの給付）が十分とは言えない現状において、グループホームにおける居宅介護の積極的活用等による運営に努めました。グループホームにおける居宅介護利用については、令和3年3月末までの経過措置となっていました。引き続き利用できるようになりました。今後も関係団体とともに恒久化に向けた要望をしていきたいと思ひます。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- グループホーム管理センターの開設による職員間の連携強化。
- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- 各ホーム職員会議及び職員全体研修会（年2回）を実施する。
- グループホーム間での職員交流を図る（フォロー体制作り）。

コロナ禍のため外部研修の開催が中止となり、今年度は外部研修へ参加する機会はほとんどありませんでした（下半期になりオンラインによる研修へ参加）。毎月の職員会議では内部研修（内容は下記参照）を実施し、短い時間ではありますが継続して学ぶ機会を設けました。

グループホーム全体の職員を対象とした研修を年3回（7月、11月（権利擁護内部研修）、10月）実施し、担当グループホーム以外の職員と意見交換する機会を設けました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホーム職員会議の定期的開催及びケース検討会の実施	ミーティングや職員会議にて、個別支援計画について情報共有ができました。ケース検討会はその機会を十分に持つことができなかったため次年度は各ホームの職員会議の開催頻度を増やし職員間の意見交換を図りたいと思ひます。
(2) 通所施設等との連携強化	日々の入居者状況の連絡（引継ぎ）、連絡会の実施	日々のグループホームと通所施設での連絡（引継ぎ）以外に必要なに応じて、ケア会議を実施し情報共有ができました。
(3) グループホーム管理センターの機能強化	職員間の連携強化（管理者、総務、サビ管等）、人材育成	ピボット若林（グループホーム管理センター）が事務的拠点となり、情報の集約を図ることができました。
(4) 他法人 GH 等との連携	GHに関する勉強会、研修会への参加	仙台市グループホーム連絡会に加入し、研修会（オンライン）へ参加し、情報収集することができました。コロナ禍のため他法人 GH との交流までには至りませんでした。

○ その他の活動

- 関係機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営等に関する情報収集を図る。
- 仙台市グループホーム連絡会へ参画し、グループホームに関する情報収集及び事業所間の交流を図る。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月 1 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月 1 回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 2 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
各グループホーム連絡会	年 3 回程度	GH・通所事業所の情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

< 内部研修 >

<p>◇グループホーム職員会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「亜由未が教えてくれたこと」(NHK ETV 特集より) (4月) ・「GH 援助のポイントより」「新型コロナウイルス どう守る？障害者の暮らし」(NHK ハートネット TV より) (6月) ・「たけし 自立生活ははじめました～重い知的障害のある人の新しい暮らし」(NHK ハートネット TV より) (7月) ・個別支援計画読み合わせ (8月) ・研修報告「わらしべ舎ハーモニー西ノ平 GH」(9月) ・「相模原事件から 4 年～重度障害者の暮らしの選択は」(NHK ハートネット TV より) (10月) ・法人実践発表会上映 (12月、1月) ・日本 GH 学会 WEB 講座「感染症対策講座」(2月) ・法人全体研修「3.11 つながる力座談会」上映 (3月) 	<p>◇グループホーム職員全体研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回職員全体研修会 (7/9. 幸町市民センターにて)「仕事にやりがいを感じるこゝろ」～ワールドカフェ、「グループホーム入居者に関わる 1 問 1 答自己チェック」 ・権利擁護委員会主催内部研修 (11/18. A 型センターにて)「グループワークを通して自らの支援を振り返る機会を持つ」「他者と成功体験や福祉の仕事のやりがいについて話し合い、肯定感を高め合う」 ・第 2 回職員全体研修会 (10/13. 幸町市民センターにて)「グループホーム職員を対象とする新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会」
--	--

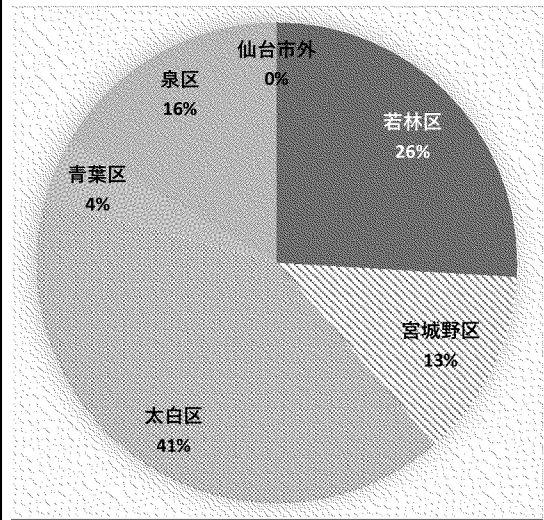
< 外部研修 >

<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市グループホーム連絡会障害者グループホームセミナー「新型コロナウイルス感染症防止について」(オンライン) ・仙台市グループホーム連絡会障害者グループホームセミナー「グループホームでの BCP (事業継続計画) の作成について」「グループホームでの感染予防マニュアルの作成について」(オンライン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県グループホーム大会 (オンライン) (飯田,佐藤靖) ・親なきあとの暮らしの現状と課題 (オンライン) (飯田,佐藤靖)
---	---

IV 參考資料

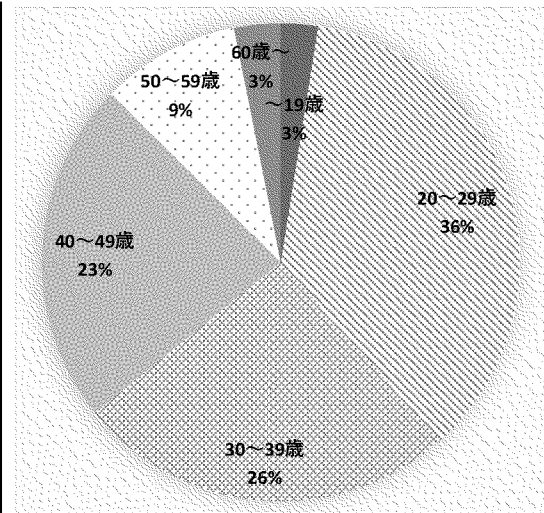
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つどいの家 仙台	仙台	1	12	1	3	21	0	38
	さんしよ	0	2	0	0	5	0	7
	合計	1	14	1	3	26	0	45
つどいの家 コベル	コベル①	15	3	9	0	0	0	27
	コベル②	10	1	2	2	0	0	15
	オリザ	3	1	2	0	0	0	6
	合計	28	5	13	2	0	0	48
つどいの家 アプリ	アプリ	1	0	30	0	0	0	31
	ミント	0	0	6	1	0	0	7
	合計	1	0	36	1	0	0	38
つどいの家 八木山	生活介護	2	0	11	1	0	0	14
	合計	2	0	11	1	0	0	14
福祉センター 若林障害者	生活介護	9	1	3	0	0	0	13
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	9	1	3	0	0	0	13
法人 通所合計	合計	41	20	64	7	26	0	158



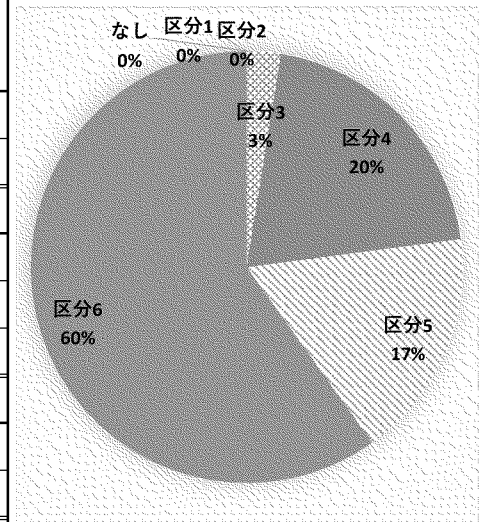
■利用者年齢区分

		～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台つどいの家	仙台	2	9	7	15	4	1	38
	さんしよ	0	3	0	4	0	0	7
	合計	2	12	7	19	4	1	45
つどいの家 コベル	コベル①	0	6	8	4	0	1	19
	コベル②	0	3	6	6	5	3	23
	オリザ	0	2	3	0	1	0	6
	合計	0	11	17	10	6	4	48
つどいの家 アプリ	アプリ	2	15	7	5	2	0	31
	ミント	0	4	3	0	0	0	7
	合計	2	19	10	5	2	0	38
つどいの家 八木山	生活介護	0	9	2	1	2	0	14
	合計	0	9	2	1	2	0	14
福祉センター 若林障害者	生活介護	0	6	5	2	1	0	14
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	6	5	2	1	0	14
法人 通所合計	合計	4	57	41	37	15	5	159



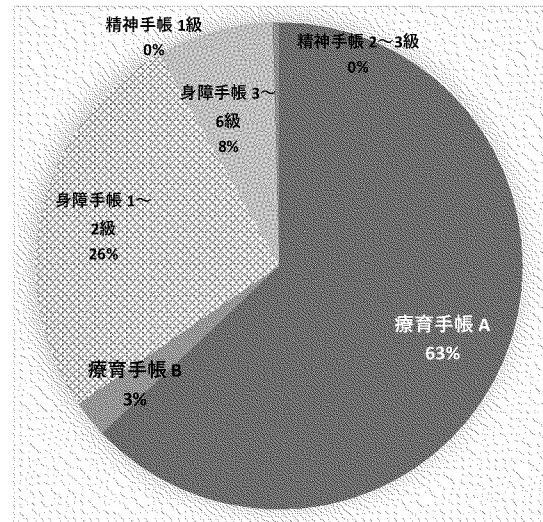
■障害支援区分

		なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つどいの家 仙台の家	仙台	0	0	0	2	11	5	19	5.1
	さんしよ	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	2	11	5	26	5.3
つどいの家 コベルの家	コベル①	0	0	0	0	5	4	8	5.2
	コベル②	0	0	0	0	3	5	17	5.6
	オリザ	0	0	0	0	0	0	6	6.0
	合計	0	0	0	0	8	9	31	5.5
つどいの家 アプリの家	アプリ	0	0	0	1	4	4	22	5.5
	ミント	0	0	0	0	0	1	6	5.9
	合計	0	0	0	1	4	5	28	5.6
つどいの家 八木山の家	生活介護	0	0	0	1	6	5	2	4.6
障害福祉センター 若林センター1	生活介護	0	0	0	0	3	3	7	5.3
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	0	0	0	0	3	3	7	5.3
法人 通所合計	合計	0	0	0	4	32	27	94	5.3



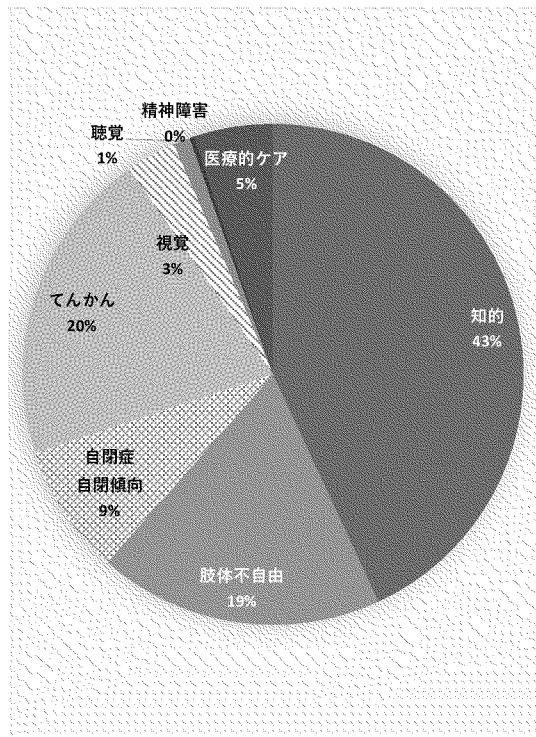
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1 2 級	3 5 6 級	1 級	2 3 級
つどいの家 仙台の家	仙台	37	1	11	9	0	0
	さんしよ	7	0	7	0	0	0
	合計	44	1	18	9	0	0
つどいの家 コベルの家	コベル①	19	0	1	2	0	0
	コベル②	22	1	15	3	0	0
	オリザ	6	0	6	0	0	0
	合計	47	1	22	5	0	0
つどいの家 アプリの家	アプリ	30	1	11	4	0	0
	ミント	6	1	7	0	0	0
	合計	36	2	18	4	0	0
つどいの家 八木山の家	生活介護	12	2	2	1	1	0
障害福祉センター 若林センター1	生活介護	14	0	4	0	0	0
	生活訓練	0	0	0	0	0	0
	合計	14	0	4	0	0	0
法人 通所合計	合計	153	6	64	19	1	0



■利用者障害種別

		知的	肢体不自由	自閉症 自閉傾向	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
つどいの家 仙台の家	仙台	38	15	12	17	4	4	0	1
	さんしょ	7	7	1	7	1	0	0	5
	合計	45	22	13	24	5	4	0	6
つどいの家 コベルの家	コベル①	19	1	5	7	3	0	0	0
	コベル②	23	13	0	14	1	0	0	0
	オリザ	6	6	0	6	1	0	0	4
	合計	48	20	5	27	5	0	0	4
つどいの家 アプリの家	アプリ	31	11	10	15	0	0	0	0
	ミント	7	7	0	4	1	0	0	6
	合計	38	18	10	19	1	0	0	6
つどいの山家	生活介護	14	3	7	3	1	0	1	0
福祉センター 若林障害者	生活介護	14	5	3	5	1	0	1	3
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	14	5	3	5	1	0	1	3
法人 通所合計	合計	159	68	31	75	12	4	1	19



2 地域生活支援部門 利用実績

■ すてっぷ・はうす 事業実績

(令和3年3月末日時点)

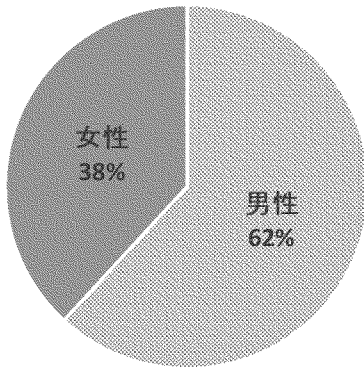
利用登録者数 :270名(令和元年度比: +178名)

※「だいち」「すきっぷ」共通

1. 利用登録者状況

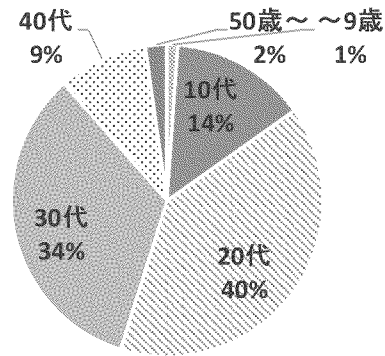
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	167	103



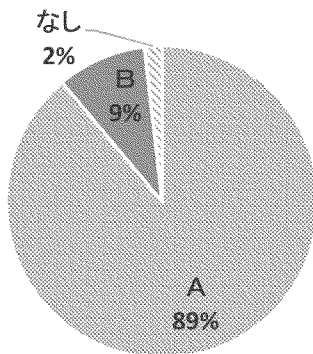
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	3	38	107	91	25	6



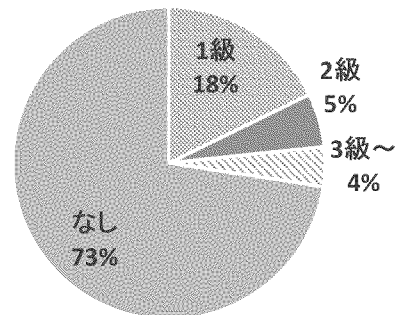
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	240	25	5



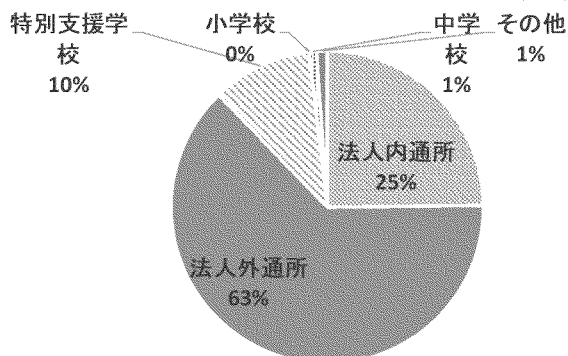
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	48	15	11	196



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	67	170	28	0	2	3



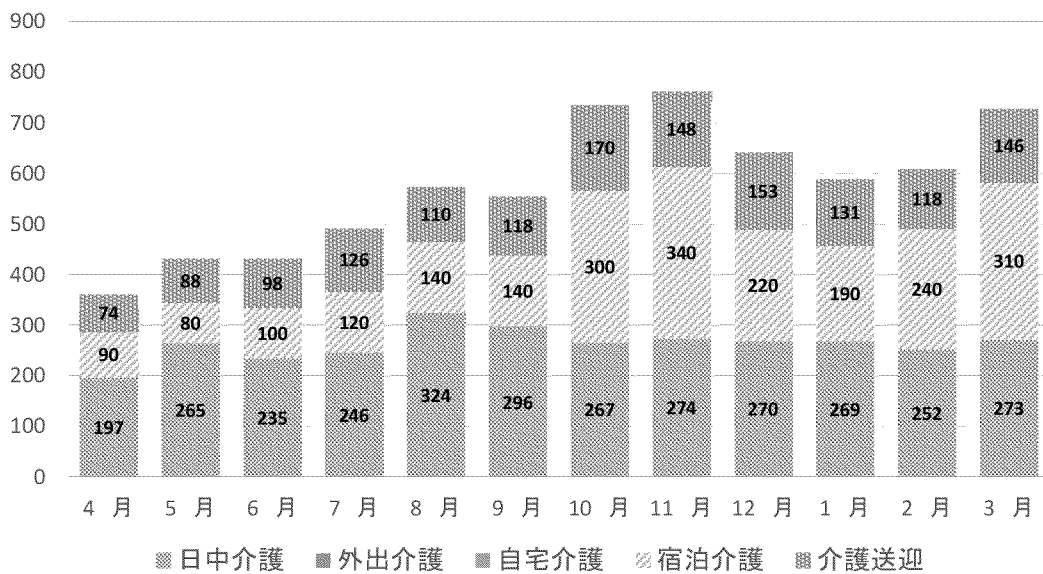
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4月	197	0	1	90	74	362
5月	265	0	0	80	88	433
6月	235	0	0	100	98	433
7月	246	0	1	120	126	493
8月	324	0	1	140	110	575
9月	296	0	2	140	118	556
10月	267	0	0	300	170	737
11月	274	0	0	340	148	762
12月	270	0	0	220	153	643
1月	269	0	0	190	131	590
2月	252	0	0	240	118	610
3月	273	0	0	310	146	729
合計	3,166	0	5	2,270	1,480	6,921

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊=10時間



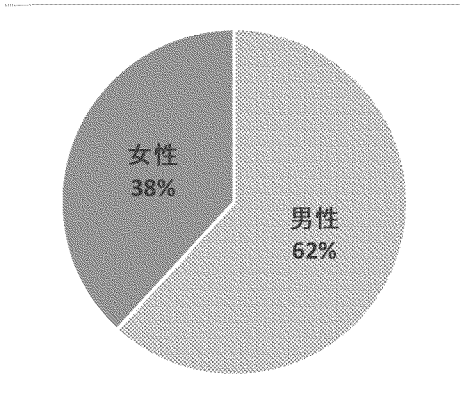
利用登録者数 : 270名 (令和元年度比: +178名)

※「だいち」「すてっぷ・はうす」共通

1. 利用登録者状況

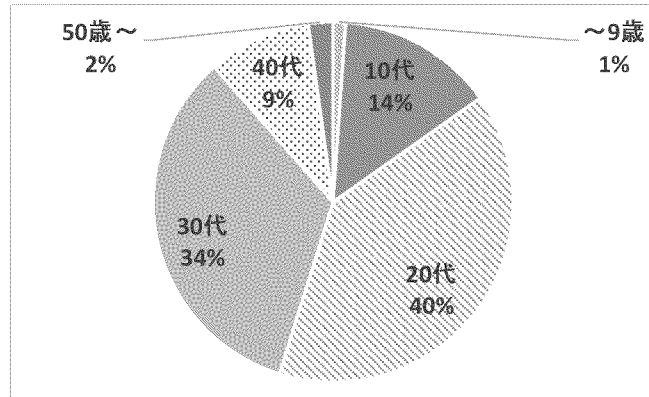
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	167	103



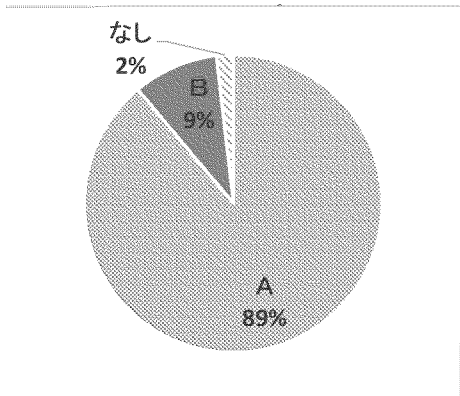
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	3	38	107	91	25	6



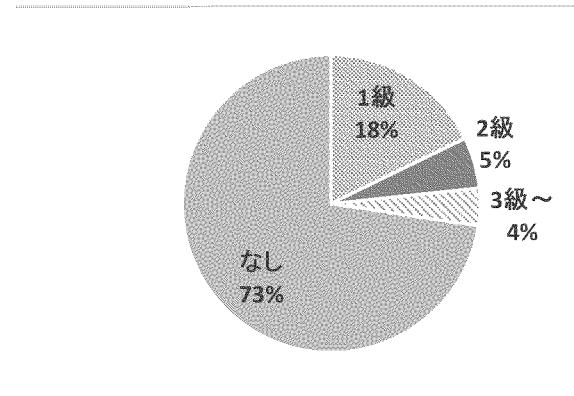
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	240	25	5



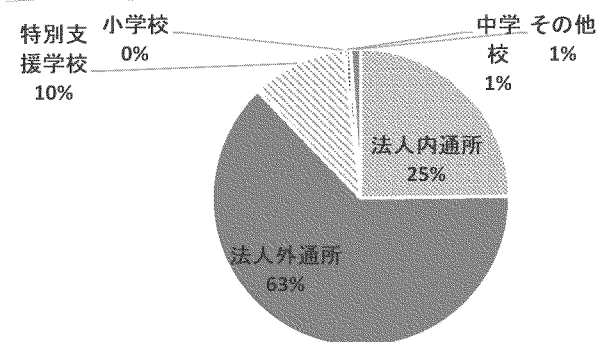
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	48	15	11	196



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	67	170	28	0	2	3

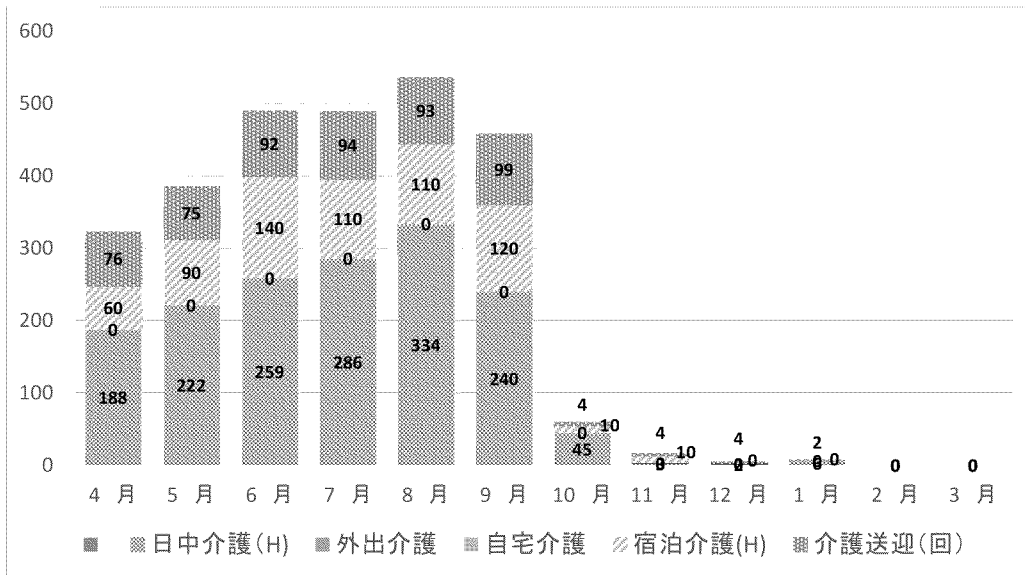


2. 利用状況

利用状況	日中介護(H)	外出介護	自宅介護	宿泊介護(H)	介護送迎(回)	月計
4月	188	0	0	60	76	324
5月	222	0	0	90	75	387
6月	259	0	0	140	92	491
7月	286	0	0	110	94	490
8月	334	0	0	110	93	537
9月	240	0	0	120	99	459
10月	45	0	0	10	4	59
11月	3	0	0	10	4	17
12月	2	0	0	0	4	6
1月	6	0	0	0	2	8
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0
合計	1,585	0	0	650	543	2,778

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊=10時間



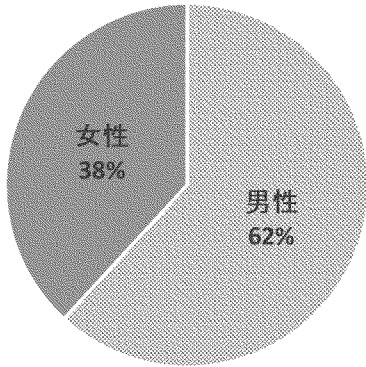
利用登録者数 :270名(令和元年度比: +178名)

※「すてっぷ・はうす」「すきっぷ」共通

1. 利用登録者状況

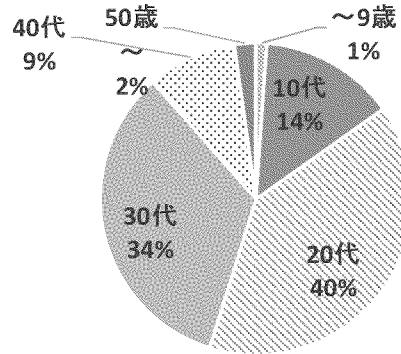
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別別	167	103



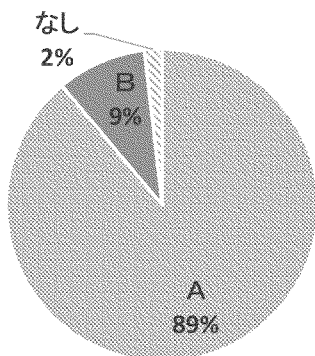
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	3	38	107	91	25	6



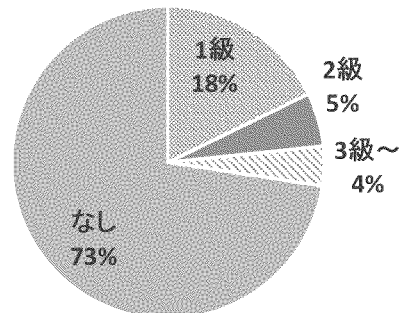
【療育手帳】

利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	240	25	5



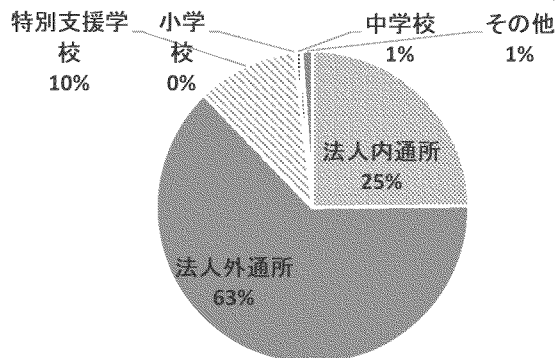
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	48	15	11	196



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	67	170	28	0	2	3



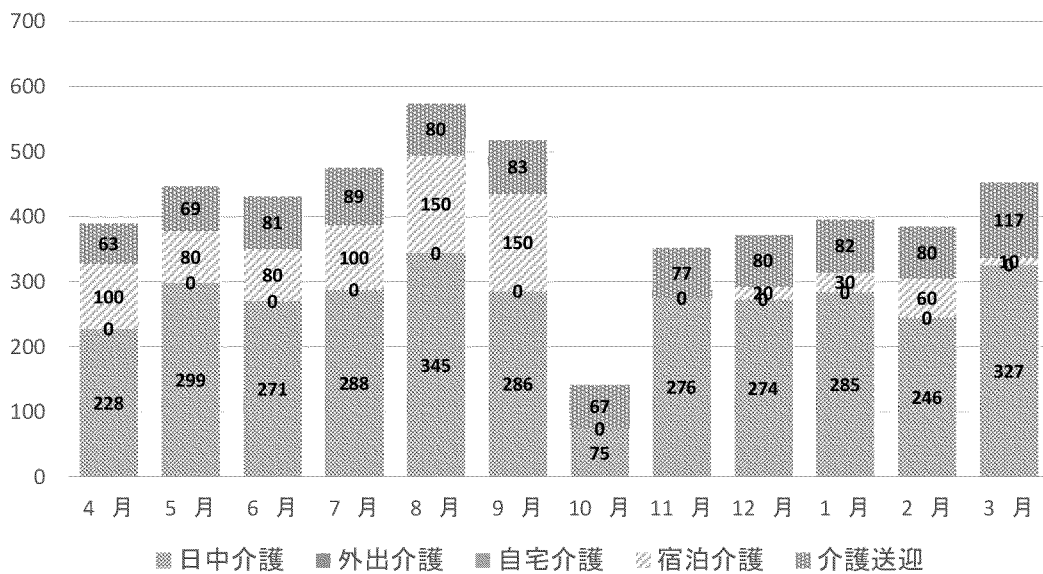
2. 利用状況

(単位:時間)

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4月	228	0	0	100	63	391
5月	299	0	0	80	69	448
6月	271	0	0	80	81	432
7月	288	0	0	100	89	477
8月	345	0	0	150	80	575
9月	286	0	0	150	83	519
10月	75	0	0	0	67	142
11月	276	0	0	0	77	353
12月	274	0	0	20	80	374
1月	285	0	0	30	82	397
2月	246	0	0	60	80	386
3月	327	0	0	10	117	454
合計	3,199	0	0	780	968	4,947

*医療レスパイト含む

*宿泊介護:1泊=10時間



■ 障害者相談支援事業所「とびら」 事業実績

実施主体名称	社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名称	地域生活サポートセンター びぼっと支倉 障害者相談支援事業所 とびら							
	住所	青葉区支倉町2-35 びぼっと支倉内							
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	110	13	1	56	28	8	1	0	12
障害児	74	5	2	47	1	22	6	0	8
計	184	18	3	103	29	30	7	0	20
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	405	127	126	927	160	137	1,193	0	3,075
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	1,509	278	225	204	94	232	152		
ピアカウンセラー(再掲)									
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数	240	239	50	11	38			3,272	
ピアカウンセラー(再掲)								0	

仙台市障害児等療育支援事業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	3	7	9	8	5	5	9	8	5	6	8	2	75.0
療育技術指導事業	2	1	3	1	1	1	1	0	1	2	2	0	15.0
計	5	8	12	9	6	6	10	8	6	8	10	2	90.0

令和2年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	49	7	14	21	36	15	39	33	34	29	23	27	327.0	27.3
モニタリング	174	65	60	62	94	48	75	68	66	65	57	67	901.0	75.1
計	223	72	74	83	130	63	114	101	100	94	80	94	1228.0	102.3

□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

※3月末日現在

年 度	令和2年度		令和元年度		増減数	
計画相談契約者数	259	名	300	名	△ 41	名
うち 成人数	203	名	228	名	△ 25	名
うち 児童数	56	名	72	名	△ 16	名
一般相談登録者数	131	名	143	名	△ 12	名
相談員数	7	名	8	名	△ 1	名
一人あたりの担当ケース数(平均)	55.7	名	55.4	名	0.3	名

■ 障害者相談支援事業所「くれよん」 事業実績

実施主体名称	社会福祉法人 つどいの家								
実施施設	名称	地域生活サポートセンター ビボット若林 障害者相談支援事業所 くれよん							
	住所	若林区遠見塚2-16-15 ビボット若林内							
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	49	3	3	29	13	10	2	0	0
障害児	16	1	2	9	0	5	2	0	2
計	65	4	5	38	13	15	4	0	2
支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	34	39	33	221	10	49	294	0	680
支 援 内 容									
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済		
延件数	424	38	175	129	77	167	40		
ピアカウンセラー(再掲)	0	0	0	0	0	0	0		
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他			合計	
延件数	61	106	12	8	3			1,240	
ピアカウンセラー(再掲)	0	0	0	0	0			0	

仙台市障害児等療育支援事業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
療育技術指導事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

令和2年度 サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	8	14	8	11	10	5	10	8	10	8	8	10	110.0	9.2
モニタリング	43	36	27	38	31	31	36	34	26	38	33	24	397.0	33.1
計	51	50	35	49	41	36	46	42	36	46	41	34	507.0	42.3

□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

※3月末日現在

年 度	令和2年度	令和元年度	増減数
利用契約者数	139 名	129 名	10 名
うち 成人数	132 名	121 名	11 名
うち 児童数	7 名	8 名	△1 名
一般相談登録者数	37 名	32 名	5 名
相談支援専門員数	4 名	4 名	0 名
一人あたりの担当ケース数(平均)	44.0 名	40.3 名	4 名

利用登録者数 :20名

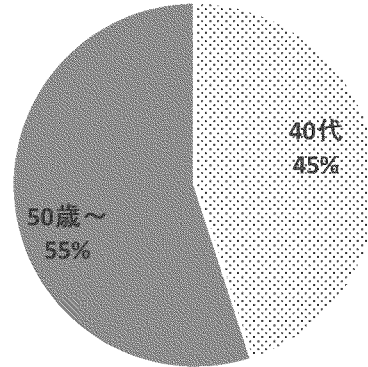
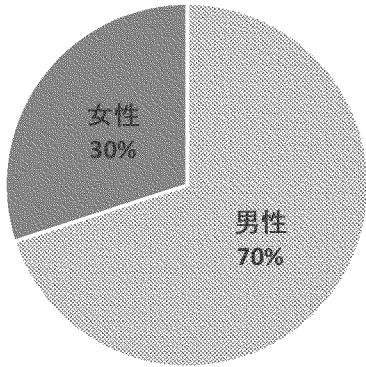
1. 利用登録者状況

【性別】

利用登録者	男性	女性
性別別	14	6

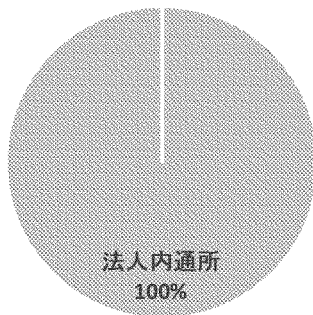
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別					9	11



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	20						



2. 利用状況

(単位:時間)

	令和元年度	令和2年度
居宅介護	16,426.0	17,316.5
同行援護	274.0	152.5
合計	16,700.0	17,469.0

* 令和元年度より、個人単位で居宅介護等を利用するグループホーム類型に対応する事業所へ移行

利用登録者数 : 142名 (令和元年度比: 2名減)

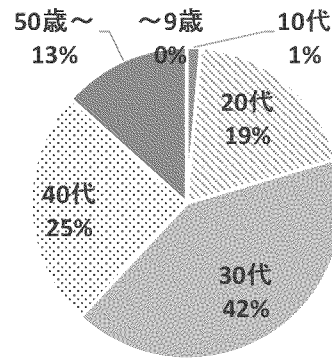
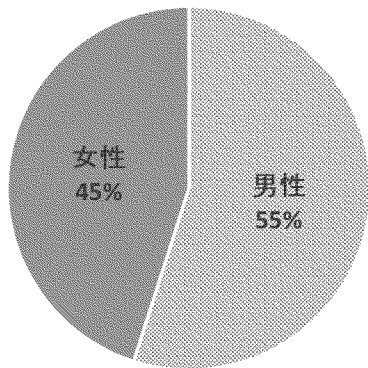
1. 利用登録者状況

【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	78	64

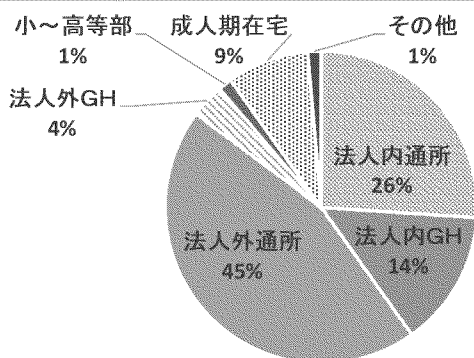
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	2	27	59	35	19



【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	37	20	64	5	2	12	2



2. 利用状況

(単位: 時間)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
居宅介護	9,129.5	9,961.5	4,932.5	4,458.0
(うち、GH利用数)	6,298.0	6,986.5	0.0	0.0
重度訪問介護	0.0	0.0	1,382.0	1,047.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	256.0	157.0	0.0	0.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護	176.5	97.5	666.5	269.0
(うち、GH利用数)	0.0	0.0	0.0	0.0
移動支援	4,244.5	4,110.5	11,505.0	6,581.0
(うち、GH利用数)	764.0	488.5	1,770.0	1,015.5
合計	13,806.5	14,326.5	18,486.0	12,355.0
(うち、GH利用数)	7,062.0	7,475.0	1,770.0	1,015.5

○備考
 ・登録者数の推移
 平成28年度 64名
 平成29年度 68名
 平成30年度 68名
 令和元年度 144名
 令和2年度 142名

■ 福祉有償運送 事業実績

(令和3年3月末日時点)

1. 利用登録者状況

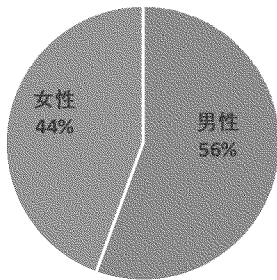
【総数】

実施事業所名	令和2年度	令和元年度	前年度比
びぼっと南光台	9	8	1

※P若林、P支倉は平成29年9月末日をもって事業終了

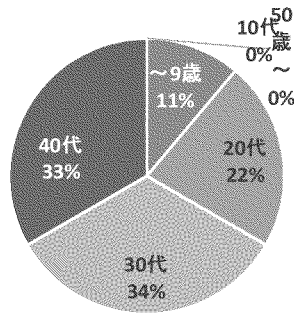
【性別】

事業所名	男性	女性
びぼっと南光台	5	4



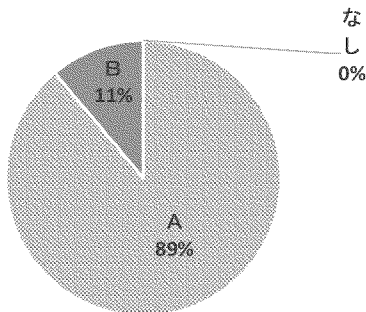
【年齢別】

事業所名	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
びぼっと南光台	1	0	2	3	3	0



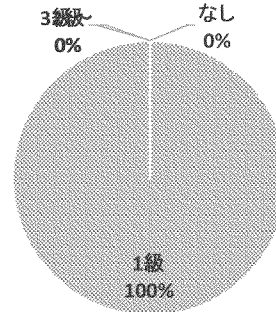
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
びぼっと南光台	8	1	0



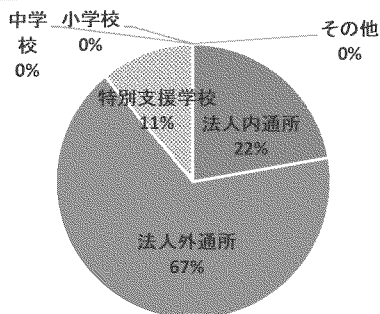
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
びぼっと南光台	2	0	0	0



【在籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	2	6	1	0	0	0

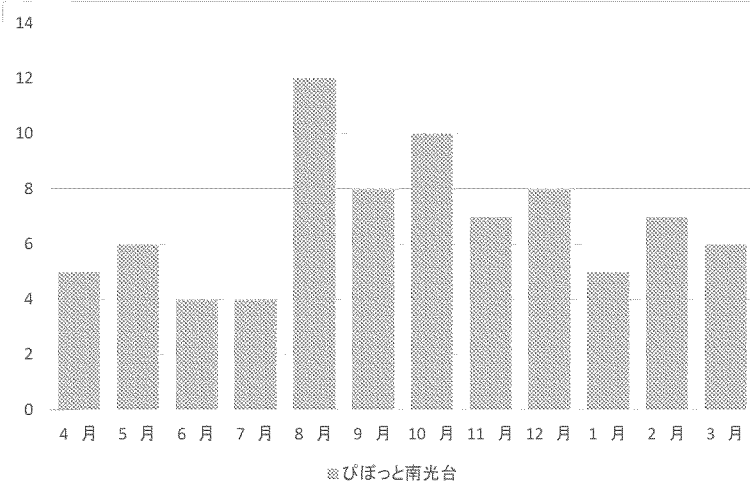


2. 利用状況

【月別運行回数】

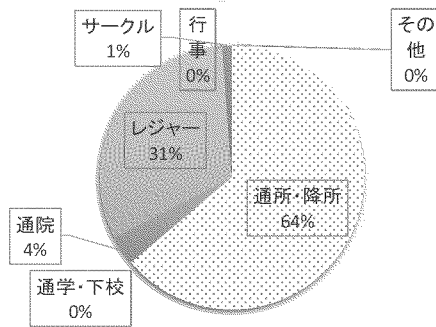
(単位:回)

月	びぼっと南光台
4月	5
5月	6
6月	4
7月	4
8月	12
9月	8
10月	10
11月	7
12月	8
1月	5
2月	7
3月	6
合計	82



【利用目的別】

事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	53	0	3	26	0	1	0

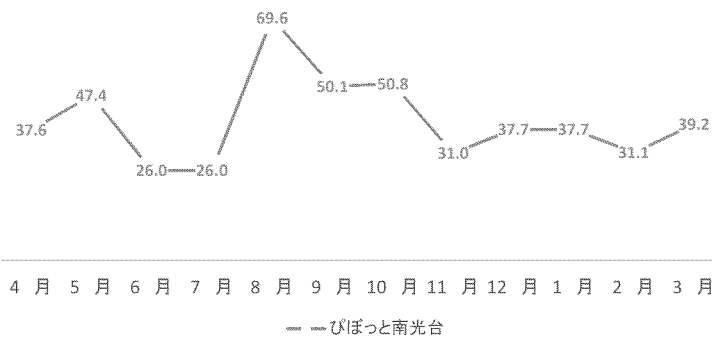


●通所・降所 ●通学・下校 ●通院 ●レジャー ◆行事 ■サークル ■その他

【事業所別 移送距離】

(単位:km)

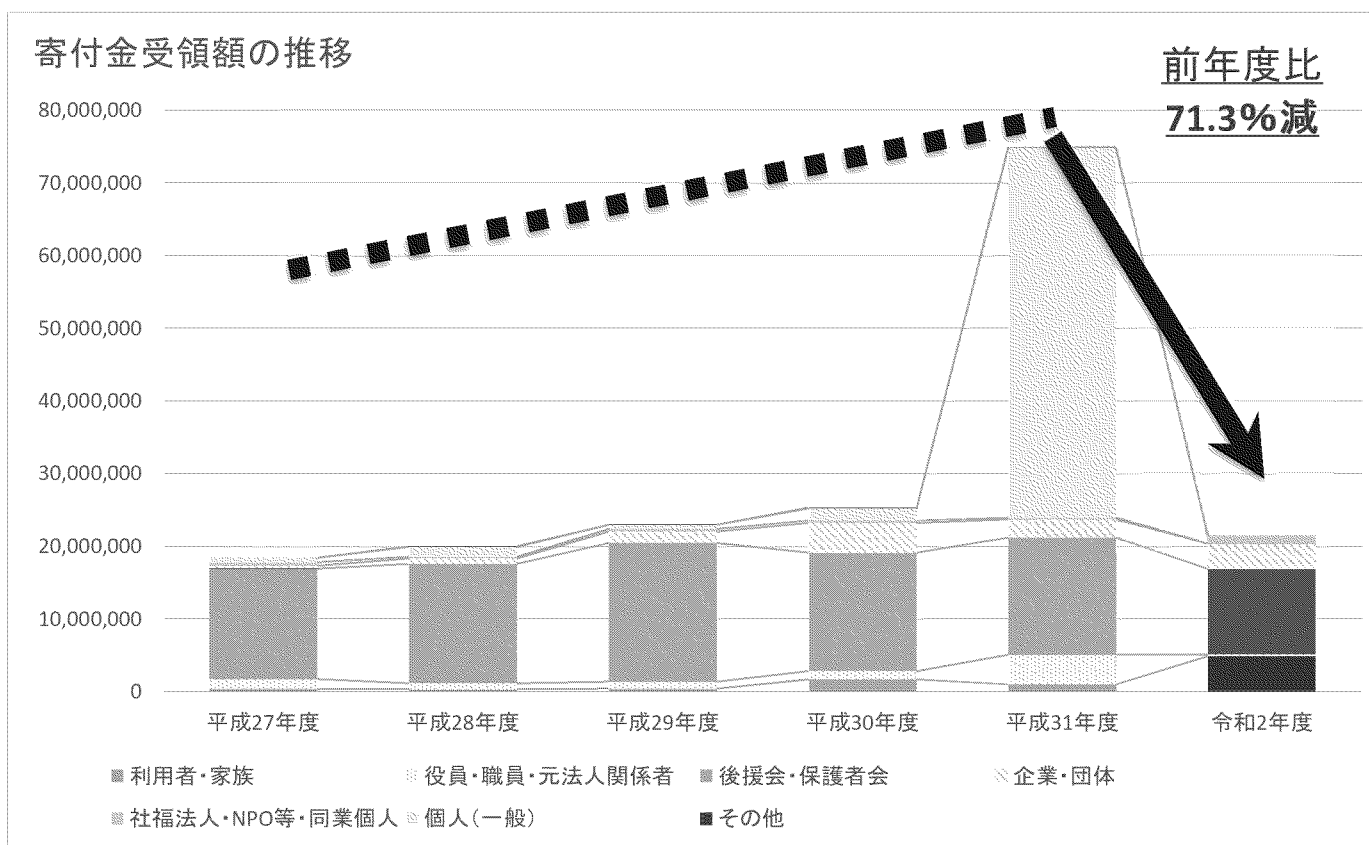
月	びぼっと南光台
4月	37.6
5月	47.4
6月	26.0
7月	26.0
8月	69.6
9月	50.1
10月	50.8
11月	31.0
12月	37.7
1月	37.7
2月	31.1
3月	39.2
合計	484.2



3 寄付金受領状況

□ 寄付金の推移

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	前年度比(%)	
寄付金額	18,492,805	20,095,621	23,051,091	25,447,486	74,979,785	21,494,317	-71.3%	
(内訳)	利用者・家族	462,159	428,000	525,902	1,764,300	1,118,916	4,982,280	345.3%
	役員・職員	1,312,629	835,968	542,454	619,107	3,949,000	210,366	-94.7%
	元法人関係者	25,000	0	406,657	577,982	96,490	26,525	-72.5%
	後援会・保護者会	15,238,055	16,390,286	19,066,618	16,264,149	16,110,578	11,756,744	-27.0%
	企業・団体	370,000	742,808	1,587,342	4,090,300	2,498,966	3,456,942	38.3%
	社福法人・NPO等	171,716	152,352	152,583	45,000	54,000	41,000	-24.1%
	個人(同業関係)	300,000	100,000	170,000	270,000	183,000	0	-100.0%
	個人(一般)	613,246	1,354,070	586,205	1,652,588	50,882,463	980,460	-98.1%
	その他	0	92,137	13,330	164,060	86,372	40,000	-53.7%



(年度毎での特記事項/特徴点)

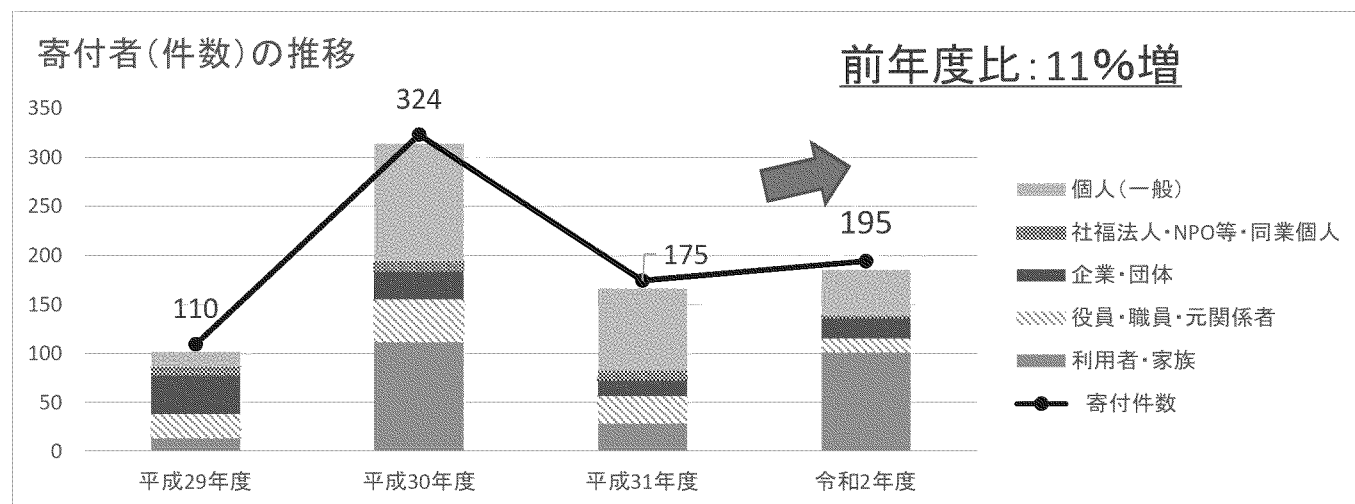
- ・新型コロナウイルス感染拡大等による人との関わりが少なくなったことの影響もあって寄付総額が大幅に減少しました。
 - ・特に一昨年度における遺贈寄付(50,000千円)分が減少の大きな要因になります。
- それを差引くと、前年度比で14%の減少となります。
- ・同様に、コロナ禍によりバザー等の実施を中止したことも減少(保護者会からの寄付減)の要因に繋がりました。
 - ・他方で、送迎サービスの維持継続を図ることを目的に当該運営費に対する寄付募集等のあり方を見直した結果、利用者・家族からの寄付金が増加しました。

□ 寄付者の推移

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
寄付件数	73	58	110	324	175	195	
(内 訳)	利用者・家族	10	6	14	112	29	102
	役員・職員	17	18	17	31	18	12
	元法人関係者	2	0	8	13	10	2
	後援会・保護者会	11	7	6	7	7	8
	企業・団体	8	7	39	29	16	20
	社福法人・NPO等	5	2	5	1	3	3
	個人(同業関係)	4	1	4	9	7	0
	個人(一般)	16	13	15	120	84	47
	その他	0	4	2	2	1	1

(注記)

- ・同一の寄付者が複数の事業所に同日又は別日に寄付をした場合を含め、「述べ」で件数をカウントした。
- ※平成27年度のみ



□ ドナーレンジチャート

【平成31年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ~	10人・団体	56,438,481円	6.0%	96.0%
50,000円 ~ 199,999円	10人・団体	866,000円	6.0%	1.5%
10,000円 ~ 49,999円	72人・団体	1,192,578円	41.9%	1.9%
5,000円 ~ 9,999円	28人・団体	165,786円	16.2%	0.3%
1円 ~ 4,999円	47人・団体	119,990円	28.1%	0.2%
計	167人・団体	58,782,835円	100.0%	100.0%

【令和2年度】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ~	5人・団体	3,449,566円	2.7%	35.6%
50,000円 ~ 199,999円	59人・団体	4,533,700円	31.7%	46.8%
10,000円 ~ 49,999円	70人・団体	1,528,327円	37.6%	15.8%
5,000円 ~ 9,999円	19人・団体	104,600円	10.2%	1.1%
1円 ~ 4,999円	33人・団体	81,380円	17.8%	0.8%
計	186人・団体	9,697,573円	100.0%	100.0%

※ 後援会、保護者会、職員会からの寄付金は除く

4 地域における公益的取り組みに関する状況等

平成 28 年改正社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 28 年 4 月から、「地域における公益的な取組」の実施が法人の責務として位置づけられました。当法人としても、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かしながら、当該取組の実践を通じ地域社会へ貢献していきます。今年度の取り組みについては以下のとおりです。

取組類型	取り組みの名称 (対象者)	目的	成果
地域の要支援者に対する配食、見守り、移動支援等の生活支援	かけこみ 110 番の家 (地域小学校の児童)	地域学区の「かけこみ 110 番の家」に登録	登録事業所付近は、店舗も少なく該当もまばらなため、地域の小学生の安心につながる。
	フードボックスの設置	フードボックスの設置等を通して生活困窮者の支援や食品ロス解消の循環にかかわる。	フードバンク仙台への食品提供 (年 5 回)
地域住民に対する福祉教育	中学校職場体験 (地域中学校の学生)	中学生に福祉の仕事としようがいの理解促進のため、授業に参加し講話する。	活動をとおしてしょうがい理解につながる。
	宮城県小規模法人ネットワーク化協働推進事業への参画 (福祉関係者)	若林区内の社会福祉法人とネットワークを形成し、職員育成や地域福祉の向上に努める。	3 法人間による職員交換研修及び報告会の実施 (地域ネットワーク力と職員の支援力向上。)
その他	生活困窮者に対する就労体験実習 (生活困窮者) 就職氷河期世代への就職相談 (就職氷河期世代)	様々な要因で就業の機会から離れている方に対して、就労体験の場を提供し、一般就労に向けた支援を行う。 またハローワークで実施するミニ相談会に参加し、職業相談を実施した。	ハンズ sendai を通して 2 名の生活困窮者に対して福祉の職場見学、を行う。 ミニ相談会では 6 名 (うち 4 名が就職氷河期世代) への就職相談へ対応する。

上記取り組みの他、地域向けサロンやイベントを通じ地域の関係者とのネットワーク作りを行い、地域課題の掘り起こしと課題の検討及び情報交換の機会を各事業所で持ちました。今後も新たな地域ニーズに対して積極的に対応していきます。

5 令和2年度 法人会議・委員会実施状況 補足資料

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
経営会議	経営会議	<ul style="list-style-type: none"> 事業の遂行管理、財務状況等の確認や方針決定 改正女性の職業生活における～法律及び働き方改革に関する諸案件の検討 諸規程の改廃、寄付金募集と拡充に向けた取組み検討 レスパイト事業移行に関する方針決定、他 	<ul style="list-style-type: none"> 諸案件の決定 ・中期経営計画(成果物) ・宮城県社会福祉協議会経営相談の活用 	働き方改革に関する処遇関係。	11回	
	経営戦略検討会議	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度にまとめた中期経営計画(中間案)をもとに、新型コロナウイルス感染症拡大による現状を踏まえ、計画の抜本的な見直しと再整理を行う。策定にあたっては、理事長と3部長間で現下における優先順位を定め、事務局(総務部)にて最終案をまとめ会議に提呈する。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸案件の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理 ・中間評価(振り返り)を踏まえた計画期間後期の取組みなど 	1回	
主要会議	人事委員会	<ul style="list-style-type: none"> 職員人事全般(職員の任免、処遇及び賞金等の見直しなど) ・ハラスメント対策の強化(方針、相談窓口、解決手順等)に向けた検討 ・相談支援従事者初任者研修などの受講者入選 ・コロナ感染対応に伴う基礎疾患等を有する職員の状況確認 ・産業医の人選(現職からの退任意向を受けて) 		<ul style="list-style-type: none"> ・常勤及び非常勤職員等の処遇改善等の検証 ・職制や勤続年数等に応じた研修体系の見直し ・専門職におけるキャリアパス制度の構築、他 	17回	
	法人衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所における衛生推進への取組み共有 ・職員健康診断の総括 ・長時間労働実態把握・課題抽出など 	<ul style="list-style-type: none"> 諸案件に関する全体共有 	各事業所での衛生推進の取組みを促進するため、各事業所毎に衛生委員会を実施予定	6回	
権利擁護・虐待防止委員会	権利擁護・虐待防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙、コロナ感染対策、衛生環境、ストレスチェック、ハラスメントについて、熱中症対策、介護中の転倒・転落について、ボディメイクカニクコペル内での取組みを確認し、業務整理を行う。 ・各グループの時間外に行う業務を確認し、業務整理をしていくよう周知した。目標を18時退勤としている。各グループで手洗い推奨がスター作成。 	<ul style="list-style-type: none"> コペル内の環境整備を重点的に行っている。腰痛体操を車の内、各グループで朝の会の後に行っている。時間外労働について、各グループの時間外に行う業務を確認し、業務整理をしていくよう周知した。目標を18時退勤としている。各グループで手洗い推奨がスター作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 箱内の環境整備がまだ不十分な場所があるため、引き続き環境整備を行っていく。時間外労働についての取組みを具体化していきたい。 ・17時45分退勤を目標に対策を考えて行きたい。働きやすい環境作りをメインに取り組みで行きたい。 	10回	
	権利擁護・虐待防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> 法人内部研修の内容検討、意思決定支援事例集の作成準備、虐待防止に関するポスター作成、令和3年度以降の権利擁護委員会の持ち方 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所における内部研修の開催、法人内における意思決定支援の事例集作成、虐待防止のポスター作成 	令和4年度から各事業所において設置義務化される研修会の開催方法について、方向性を示していく。	5回	
事業運営会議	事業運営会議	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の事業運営状況や課題等の共有、検証 ・コロナ禍での会議の在り方 ・財務状況の把握と課題検証 ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 経営会議へ連動・課題への取組みと実践。 WEB会議の実施検討 		12回	
	経営会議系列	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ネットワークのマニュアル作成の為、検討チーム発足 ・BCP(事業継続計画)からBCMへの移行の為、検討チーム(他委員会・連絡会との連携含み) ・無職訓練の課題 ・法人防災訓練の刷新(BCM含め) ・(旧)大規模災害総合マニュアルの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災ネットワークマニキュアル」完成 ・大規模災害総合マニキュアル(BCP)を「緊急事態対応マニキュアル」としてBCMへ移行 ・法人防災訓練をBCP・防災ネットワークを中心にシナリオに沿って計画・実行、アンケート集約を行う(コロナ禍の為、引き渡し訓練中止) ・看護師連絡会との連携に伴い、緊急時の服薬予備保管について進めた ・無職訓練(各月11日)の名称を「防災ネットワーク訓練」と改め、緊急事態に近い状況を想定したシナリオをもとに訓練を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態対応マニキュアルの周知・更新 ・防災ネットワーク訓練の計画・実行 ・前年度行ったアンケートを踏まえ、法人防災訓練時、引き渡し訓練を計画する ・緊急事態に伴う諸課題について検討。(台風・崖崩れ・水害・ウイルス等) ・適宜、他委員会・連絡会等と連携する 	5回	
職員研修委員会	職員研修委員会	<ul style="list-style-type: none"> 各研修の実施計画、夜部分担(講師との打ち合わせ、会場調整、講師への礼状等)、実施した研修の振り返り、研修報告書の取りまとめ、次年度の研修計画の検討等。オンライン研修の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症防止のためオンライン研修に切り替え、環境整備とハローサルを重ね実施することができた。実践発表会は達成感や連帯感を味わう機会になった。企業の講義は受講者に好評で、指導職務に活かすことができた。 	オンライン講義に切り替えたことでの効果や対面型講義と比較分析。それぞれの強みを活かしたハイブリッド型講義の構築。講師とのコミュニケーション減少の課題をどう解決するか。	6回	
	日中活動支援事業部連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ○日中活動支援事業部各事業所の情報共有など ・利用者、職員等に関する特記 ・各事業所の課題検討 ・報酬改定等制度動向の確認・共有 ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所の利用者・職員・事業所状況の共有により、他事業所の状況をタイムリーに把握できた。 ・報酬改定の考え方について、各所管理者で共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も「日中活動支援事業部検討会議」では内容を分け、情報共有などを目的に継続 ・一昨年度まで実施してきた「交換研修」イベントゆいまーるについて、コロナの状況を注視しながら実施可能性を探りたい 	11回 (web含)	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
地域生活サポートセンター管理者間及び管理者-高長間の情報交換、共有	協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の課題について検討(職員、介護人処遇改善等) ・レスパイト連携への対応(法人意見の集約と整理) ・3事業間での情報共有と個別ケース検討など 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の現状の把握、課題検討ができた ・レスパイト事業停止に伴い日中一時支援事業、短期入所事業への事業移行、移行に伴う手続きや整備 ・日中一時支援事業、短期入所事業の契約、利用場所の縮小等 ・日中一時支援事業、短期入所事業移行に伴う介護人の雇用化の実施。 ・利用のクラウド管理による業務の軽減化。 ・介護人連絡会の実施(第一回6月30日、第二回11月12日) ・予約簿や伝言ボードを他事業(P若など)からも確認できるようオンライン化を目指すなど具体的な対策を見出すことができた。 ・稼働率や利用者毎の収支など具体的な数字を確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に開催することにより、各事業及び管理者間の情報交換、共有を図る ・日中一時支援事業、短期入所事業の安定しサービス提供。 ・緊急利用へ柔軟に対応出来る人員配置。または勤務体制の構築。 ・新規介護人獲得、介護人連絡会で研修の実施。 	12回	
	地域生活サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプ事業再編の振り返りと課題整理 ・自家用車借り上げ制度 ・人材確保、育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談システムを導入することで、業務負担の改善ができた ・とびひの計画相談数を減らす為の動きとして、くれよんだけでなく他事業所へも移管する方向で検討ができた 			
事業運営協議	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・とびひ、くれよんそれぞれの支援体制や問い合わせ状況等の確認 ・とびひからくれよんへのケース移管について ・相談員全員参加による、業務改善に向けた課題整理 ・相談システム導入に向けた検討 ・相談ヒヤリハットについての共有 ・令和3年度報酬改定についての確認 ・仙台市にて実施している事業所自己評価の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談システムに関する事項(生活介護に関することと各サービスに細断する事項/給食費と送迎協力金に関する令和2年度の実績共有/重度障害者加算及び略察吸引等の実施に関する取り組みの振り返り) ・虐待及び身体拘束に関すること(権利擁護・虐待防止委員会での議論を踏まえ、事業所単位の委員会設置について検討) ・65歳到達後のサービス利用や施設間異動に関するアンケート実施。(今後の法人運営の参考にする為) ・サービス管理責任者連絡会での議論の共有(個別支援計画に関すること) 	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬改定等への対応(生活介護に関することと各サービスに細断する事項/給食費と送迎協力金に関する令和2年度の実績共有/重度障害者加算及び略察吸引等の実施に関する取り組みの振り返り) ・虐待及び身体拘束に関すること(権利擁護・虐待防止委員会での議論を踏まえ、事業所単位の委員会設置について検討) ・65歳到達後のサービス利用や施設間異動に関するアンケート実施。(今後の法人運営の参考にする為) ・サービス管理責任者連絡会での議論の共有(個別支援計画に関すること) 	4回	
	事業運営協議	<ul style="list-style-type: none"> ・重度障害者支援加算に関すること(制度理解、加算取得に関する人員配置と給付費収入の試算、日中活動チーム連絡会で検討されたマニュアルの協議) ・給食の利用者負担金に関すること(給食提供に係る経費の確認) ・自己点検チェックシートに関すること(試験的実施と結果の共有) ・その他各種情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動チーム会議で「介護職員による略察吸引等の実施」状況と目的を整理することが出来た。また、実施に必要な申請手続き等の確認と整理を行い、「介護職員等に関する吸引等」の吸引等に関する登録申請手続き等ハンドブックを作成した。 ・②「重度障害者支援加算」は、目的と概要、対象者(利用者、職員)を確認することが出来た。また、実務的に必要な各種書類の確認と整理を行い、「重度障害者支援加算運用ハンドブック」を作成した。 	5回		
PT・OT連絡会	日中活動チーム会議	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動支援事業に高長間における諸課題について、実務的な検討・整理など。令和2年度においては以下の2点を重点。 ①医療的ケアに関する『特定行為事業者にかかる諸申請書』および3号研修受講から特定行為従事者にかかる諸申請等について、確認・整理を行う。 ②市単の重度加算が廃止される強度行動障害者スコア対象者について、重度障害者支援加算が確実に取得できるように、フォーマットおよび人員配置等の確認・実務的な準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動チーム会議で「介護職員による略察吸引等の実施」状況と目的を整理することが出来た。また、実施に必要な申請手続き等の確認と整理を行い、「介護職員等に関する吸引等」の吸引等に関する登録申請手続き等ハンドブックを作成した。 ・②「重度障害者支援加算」は、目的と概要、対象者(利用者、職員)を確認することが出来た。また、実務的に必要な各種書類の確認と整理を行い、「重度障害者支援加算運用ハンドブック」を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動チーム会議で協議された「①医療的ケア」「②重度障害者支援加算」の内容(ハンドブックなど)をフィードバック(振り返り、検討など)を行う。 ・フィードバックした内容を基に、①②の内容(ハンドブックなど)を修正や追記などを更新する。 	4回	
	PT・OT連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・目的)食事サービス担当者間での情報交換と課題整理を行いながら、安心でより豊かな「食の楽しみ」を提供できるよう連絡連携していく。 ①食支援 ②コスト管理 ③体制管理 ④リスク管理 ⑤その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規グループホーム開設に向けた課題の具体的な整理検討(運営面、開設時期、勤務シフト等)。 ①食支援 ②コスト管理 ③体制管理 ④リスク管理 ⑤その他 ※情報共有、情報交換を中心に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規グループホーム開設に向けた課題の具体的な整理検討(運営面、開設時期、勤務シフト等)。 ①食支援 ②コスト管理 ③体制管理 ④リスク管理 ⑤その他 ※情報共有、情報交換を中心に行う。 	2回	
		<ul style="list-style-type: none"> ・新人の佐藤OTへのオリエンテーション、施設案内、利用者ケース検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤OTの6月末の産休に伴い、3年度は休日の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤OTの6月末の産休に伴い、3年度は休日の予定 	3回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考	
情報交換・連絡会	看護師連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ①各事業所より(健診等保健関係の情報共有) ②各事業所より(ヒヤリハット報告、利用者特記事項) ③感染症対策 ④防災・緊急時対策 ⑤医療的ケアについて(日中活動サーフ会議・医ケア部会) 	<ul style="list-style-type: none"> ③館内の消毒について周知・推進(1日2回、スイッチ等だけでなく水回りも行う)、衛生用品の購入先の情報交換 ④防災委員会と連携し、非常時に備えて利用者が内服薬を通所カバンに常備するよう呼びかけ(利用者へ文書配布) ⑤ハンドブック作成の助言等 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診関係の内容及び日程調整 ・現状でのコロナウイルスへの感染対策について ・医療物品の在庫状況の把握 ・各事業所の健康状況及びヒヤリハット報告 ・感染状況が続く中での研修や勉強会などの知識や技術の向上に関することについて ・各事業所間での情報の共有について 	4回		
	サービス管理責任者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画進捗状況等確認 ・重要事項説明書の整理 ・重度障害者支援加算の状況確認 ・情報交換 ・入居者が関係する日中・地域生活支援従事者間の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有のほか、重要事項説明書の整理を行い統一を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所におけるサブ営業務の確認 ・各自事業所共通仕様書式の確認 ・日中支援における課題共有・検討 	4回		
	南北グループホーム連絡会			<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な情報共有の再確認と情報のすり合わせを行なった。 ・入居者の支援におけるGH、通所が連携して取り組む支援の課題について、協議・検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の情報整理を円滑に進めることができなかったため、方法の工夫が必要。 ・各ホームごとに年間2回の開催を予定しているが、前年度は時期が遅いという意見があったため、より早い開催予定に変更している。 	12回	
	採用チーム連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の魅力発信 ・コロナ禍での採用活動の具体化 ・採用動画の作成 ・母集団形成方法の検討(学校とのつながり強化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB説明会(視聴版・対話型)の開催 ・学校のつながり強化(東北福祉大OB訪問、尚絅学院インターンシップ登録) 	採用動画の作成。 就職説明会ブース装飾のバージョンアップ。 働きやすい職場づくり	6回		
	総務ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・業務における情報の共有・検討 ・抱えている課題の共有、視察等得るための情報等の提供 など ・新たな知識、視点等得るための情報等の提供 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務業務ならびに、法人経営・事業の円滑化。 ・オンラインの活用及び技術の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修報告の内容の編り、及び意見交換の導入。 	35回		

